府中町災害記録史

―江戸から令和―

府中町災害記録史作成実行委員会

目次

はじめに ····· 1

第１章　府中町の地形の成り立ち ····· 2

第２章　江戸時代以降の災害関連年表 ····· 5

江戸時代 ····· 5

明治時代 ····· 7

大正時代 ····· 8

昭和時代 ····· 8

平成時代 ····· 12

令和時代とこれから ····· 13

第３章　過去に発生した特筆すべき自然災害 ····· 15

大規模氾濫により死者を出した大正 15 年９月 11 日大雨 ····· 15

府中町南部で災害続きとなった昭和 47 年のあばれつゆと７月豪雨 ···· 20

塩害で停電・樹木枯れを引き起こした平成３年台風 19 号 ····· 22

全国各地で給水制限を実施した平成６年渇水 ····· 23

定期的に発生している芸予地震 ····· 24

線状降水帯で 74 名の死者を出した平成 26 年８月 20 日広島市土砂災害 ··· 26

水位基準見直しのきっかけとなった平成 28 年６月大雨 ····· 27

護岸や低地の雨水流入等の被害があった平成 28 年９月豪雨 ····· 29

線状降水帯が発生した平成 30 年７月西日本豪雨災害 ····· 30

１部．発生時の気象情報と時系列表 ····· 30

２部．大雨による被害（7/6～7/8） ····· 32

1．榎川流域の被害 ····· 32

2．山田川流域の被害 ····· 39

3．桜ヶ丘～みくまり周辺の土砂災害 ····· 41

4．瀬戸ハイムと周辺の被害 ····· 46

5．城ヶ丘の被害 ····· 50

6．府中町南部の被害 ····· 51

３部．榎川ではん濫発生（7/10） ····· 53

1．被災現場の状況 ····· 54

2．榎川はん濫の爪痕（民家への被害） ····· 69

3．榎川の水位・水量調整と復旧 ····· 70

４部．水分峡森林公園・北部山地の傷跡と復旧 ····· 73

５部．河川の水位観察カメラの設営 ····· 85

６部．ボランティア基地の最前線となった三翁神社の復旧 ····· 86

７部．被災データ ····· 87

７月の観測史上初の台風ゼロ・多雨・日照不足となった令和２年７月豪雨災害 · 88

第４章　未知の感染症による脅威 —新型コロナウイルス感染症—……90

第５章　これからの災害対応に求められること……91
近年の気象状況……91
避難行動……91
私たちの避難場所は……95
日常的な災害予防の実践……96
日頃からのコミュニティ活動……96

おわりに……98

巻末付録１　府中町の気象記録

巻末付録２　小学校区ごとのハザードマップ

巻末付録３　盛土図

はじめに

平成 30 年の西日本豪雨により府中町も大きな被害を受けた。死者が出なかったのは幸いであったが、出てもおかしくない災害であった。７月５日からの西日本を中心とした豪雨による土砂災害、７月 10 日のみくまり峡からの土砂流出、府中町中に鳴り響いたサイレンを記憶されている方も多数おられる事でしょう。本書発行日現在、いまだに復興していない場所・災害に対しての改修が進んでいない場所、どこまで考えればいいのか難しい問題です。

令和に入り、台風 15 号から始まる東日本の災害では、人間の知恵を嘲笑うような自然の力を見せつけられた。全てを想定外で済ませるのか、又、今後どのような対策を取れば自然に対抗できるのか結論の出ないところである。

とはいえ、自分たちの町の成り立ち、住んでいる場所の過去・現在の状況を理解し、一人一人が災害発生に対して自主的に判断していくのも一つの手段として考えられると思い、今回、府中町の災害史を発行させていただきました。十分な資料とは思いませんが、皆様の何かのお役に立てればと考えています。ご一読ください。

第１章　府中町の地形の成り立ち

府中町は広島県の南西部、広島市の東郊にある。町域は東西 4.18 キロメートル南北 5.20 キロメートル北東から南西に細長く伸びている。総面積 10.41 平方キロメートルの町である。

古来より交通上の重要な役割を担っていたことから、古い町並みが昭和 30 年代まで残存したため、町内の道路は狭く、救急車などの大型車の通行を妨げている。現在、都市計画に基づいた主要幹線道路がつくられている。

地質は中生代（7000 年前～１億年前）に形成された広島花崗岩類の一つである黒雲母花崗岩を基盤としている。府中低地は厚い沖積層が幾層にも重なり複雑である。府中大川・猿猴川の湿原であり、かつては海底であったためである。

府中町の山地は谷の規模は小さく浅いがＶ字形の山腹で傾斜は大きい。そのため、河川の流域面積は狭く、平時における流水量に少ない。しかし、ひとたび大雨になると呉娑々宇口地は小さいながらもＶ字形の山腹で狭いうえ、岩質が風化した花崗岩で崩れやすいことから、土石流が発生することが考えられる。これらの地域は桜ヶ丘団地を始めとし、城ヶ丘団地などの開発により宅地造成され、原形をとどめる地域は少なくなっている。

府中町の台地は城ヶ丘・石井城址である。平坦な洪積台地であり、南向きの斜面は、日当たりの良い住居地であった。貝塚・古墳・古墓からも伺える。古代府中人の生活の中心であったと考えられる。

府中町低地は御衣尾川（下流は榎川）から、府中みくまり病院・歴史民俗資料館・多家神社・府中変電所を結ぶ付近の扇状地である。山田川は山田１丁目～３丁目（山田・大歳・引地）八幡川は八幡１丁目～３丁目を流れており、集落的な発達がみられる。

府中町低湿地は、中世期までは広島湾の最も北に位置する入江であったと思われている。それゆえに、山陽道は呉娑々宇山麓を北に向い、深川（馬木・福田）から安古市を抜けたと思われる。鵜崎・青崎・六崎・湊・浜田・汌・朝泊等海にゆかりの名前が残っている。

毛利元就が広島城を築城（天正 17 年―1589 年）したころは、比治山から矢賀岩鼻を結ぶ線が海岸線であった。この頃には低湿地も陸地化が進み府中大橋あたりまで陸地化している。17 世紀中・後期には、茂陰・大須・入川・鶴江・鵜崎・鹿籠、18 世紀には堀越・本灘外・青崎の各新開が完成している。新地はマツダ株式会社の所在地であるが、大正 15 年～昭和５年に完成した埋め立て地である。しかし、人が住めるような土地ではなく、低湿地は農業（蓮田・湿田）・商工業地として利用されていたが、河川の両側は乾く暇もなく、温品川・榎川・口田川の氾濫を被っている。その後 18 世紀末頃には開拓も進み、大須新開・鹿籠新開・鵜崎新開・青崎新開が出来上がっている。三原・三角・茂陰・経免・出潮・本灘・堀越等もこの時期であると思われる。これにより、近代府中の基盤がつくられた。

府中町域のブロックダイアグラム
（昭和 50 年代頃）



出典：安芸府中町史第一巻 第一章第一節 図 1-5 を着色

の一部

府中町は昔、海だった!



古来、今の松崎八幡宮跡から埃宮、変電所に至る道の西側及び鹿籠からマツダまでの多くは海でした。その海に沿うように山陽道が作られ、周辺には寺社など史跡も多く点在しております。

マップ説明

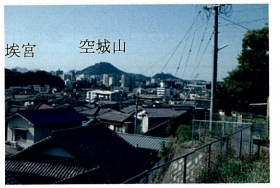
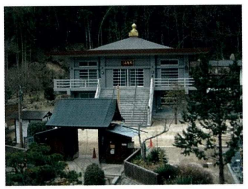
- 中世頃の山陽道
- 江戸時代以降の山陽道

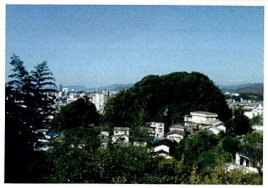
※現在の地図から標高などにより作成した想像図です。

出典：府中町観光マップより抜粋

第２章　江戸時代以降の災害関連年表

江戸時代

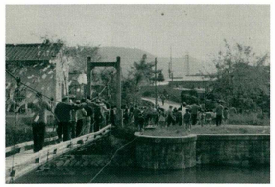
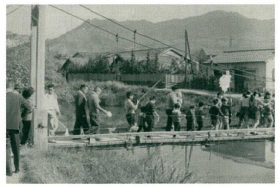
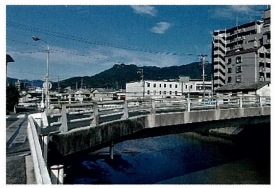
西暦	和暦	災害の概要
1707 年	宝永４年	10 月 28 日 宝永地震　マグニチュード 8.4　震源地は南海トラフとされ、全国広範囲で被害　潰家多数　広島で城堀の水が路上に溢れ、石垣の崩壊あり　沿岸部の田畑に津波で塩が入り、物価高騰 12 月 16 日 宝永大噴火　関東一円に降灰、呼吸器疾患流行
—	享保年間	石井城大火、江本寺に及ぶ  現在の石井城址 （石井城２丁目３）  石井城址から見た埃宮方面 （石井城１～２丁目）  現在の江本寺 （石井城２丁目１-18）
1754 年	宝暦４年	府中村出火、70 軒余りと長福寺焼失  現在の長福寺（宮の町３丁目２-16）
1796 年	寛政８年	浅野領内堤防決壊　流潰家 1,770 軒　死者 169 名 この４月以降洪水５回
1824 年	文政７年	出張市大火

西暦	和暦	災害の概要
		 現在の出張市跡(宮の町３丁目) 正面向かって右の山が出張城跡
1828 年	文政 11 年	浅野領内暴風雨・洪水　流家 1,600 軒　損家 12,000 軒　死者 51 人 府中　損家 36 軒　少女死亡
1829 年	文政 12 年	暴風雨・洪水　被害なし
1830 年	天保１年	洪水
1836 年	天保７年	大風　八幡馬場の大松折れる 浅野領内雨続き・洪水　流潰家 400 軒　死者 31 人  現在の八幡大通 (八幡２丁目と宮の町４・５丁目の境) 正面突当たりに松崎八幡宮跡 かつてこの道は、松崎八幡宮の参道で、道の脇に松が植えられていた。そこに馬を繋いでいたことから、「八幡馬場」と呼ばれていたという。
1846 年	弘化３年	江本寺流行病
1850 年	嘉永３年	５月　豪雨・洪水 ８月　暴風雨・洪水・高潮　５月と合わせ社寺 134 倒壊　流潰家 4,400 軒　損家 3,500 軒　死者 60 人
1854 年	嘉永７年	安政南海地震　地面に亀裂あり 11 月５日より 10 日頃（新暦では 12 月 24 日から 29 日頃）まで続く
1859 年	安政６年	夏・秋沿岸部に悪疫(コレラと推定)流行　出張で死者多数

西暦	和暦	災害の概要
1862 年	文久２年	暴瀉病(コレラ。虎狼痢・狐狼狸ともいう。)　死者多数  当時は、病気の原因が不明であったことから、妖怪の仕業とされ、様々な妖怪の絵巻物が残されている。逆に、疫病から人々を守るとされる、「アマビエ」「ヨゲンノトリ」といった妖怪も伝わっている。 「虎列剌退治」(東京公文書館蔵)

明治時代

西暦	和暦	災害の概要
1889 年	明治 22 年	７月　台風・洪水　修築を要する被害箇所は 100 余ヵ所
1895 年	明治 28 年	７月 24 日　台風、小被害
1896 年	明治 29 年	８月　台風
1900 年	明治 33 年	８月　台風、小被害
1904 年	明治 37 年	４月　台風　砂崎川堤防(字 湯屋八幡通)決壊　下榊道路及び八幡道破損  八幡川に架かる湯屋橋(宮の町２丁目)。砂崎川は、八幡川の中流域にあたる。  下榊公園(宮の町２丁目)
1905 年	明治 38 年	６月２日　芸予地震　マグニチュード 6.7　死者１名　榎木川・八幡川の土手崩れる ８月　大雨・大洪水 死者２名　家屋流失 15 戸　榎木川他数ヵ所の堤防決壊　道路・橋梁の破損流出 10 ヵ所　総降雨量 119.1㎜　時間雨量 73.0㎜
1907 年	明治 40 年	７月　大雨・小被害
1908 年	明治 41 年	８月　台風・小被害
1909 年	明治 42 年	９月　台風・小被害

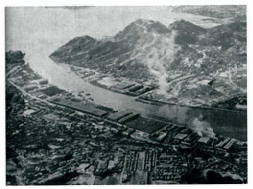
西暦	和暦	災害の概要
1910 年	明治 43 年	9 月　台風・数ヨの台風で経免・辻の治水堤防破損、土砂流失   昭和 30 年代の経免吊り橋（大通３丁目）。川の両岸一帯を「西辻」と呼んでいた。下図は、現在の経免橋。  
1911 年	明治 44 年	大雨・榎川、青崎堤防破損

大正時代

西暦	和暦	災害の概要
1914 年	大正３年	３月・８月・９月　台風　本灘堤防決壊、青崎・出汐堤防決壊
1920 年	大正９年	スペイン風邪まん延　日本国内での感染状況において、第３波の時期にあたる
1922 年	大正 11 年	７月　大雨　鶴江、相安、経免橋流出 総降雨量 151.2㎜　時間雨量 29.3㎜
1923 年	大正 12 年	５月 20 日～22 日　大雨　溜池決壊４ヵ所　堤防決壊３ヵ所
1926 年	大正 15 年	９月 11 日　大雨　死者３名　負傷者３名　家屋流出 20 戸　全潰 10 戸　全埋没 49 戸　半埋没 42 戸　床上土砂流入 29 戸 総降雨量 357.7㎜　時間雨量 79.2㎜ 【15 ページに個別記事あり】

昭和時代

西暦	和暦	災害等の概要
1928 年	昭和３年	５月 24 日　大雨　榎川堤防破損 総降雨量 114.0㎜　時間雨量 25.0㎜
1930 年	昭和５年	８月 12 日　台風　流出家屋１戸　堤防決壊 11 ヵ所 ８月 13 日　道路流出　破損 14 ヵ所　口崩れ９ヵ所 総降雨量 223.3㎜　時間雨量 53・5㎜

西暦	和暦	災害等の概要
1931 年	昭和６年	東洋工業株式会社（現マツダ株式会社）　本社を府中町に移転 自動車生産開始  東洋工業の全景 （出典：昭和 37 年の広報ふちゅう）
1937 年	昭和 12 年	府中町誕生（1,076 軒・4,925 名）  旧役場庁舎落成式 （現　歴史民俗資料館） （出典：平成 24 年３月広報ふちゅう）
1938 年	昭和 13 年	キリンビール広島工場開業  昭和 13 年６月４日キリンビール工場新工場開業式 （出典：令和３年３月町勢要覧）
1941 年	昭和 16 年	水分峡大堰堤完成   大堰堤は、大正 15 年の災害で荒廃した山林地の砂防工事、旱害（日照り）の応急対策工事で着工された経緯が記されている。
1942 年	昭和 17 年	６月 24 日　台風　茂陰、外新開堤防破壊　総降雨量 46.1㎜　時間雨量 45.3㎜
1945 年	昭和 20 年	８月６日　原爆投下 ９月 17 日　台風（枕崎台風）　床上浸水４戸　堤防決壊１ヵ所 総降雨量 197.1㎜　時間雨量 57.1㎜
1950 年	昭和 25 年	９月７日　台風（ジェーン台風）　道路、堤防橋梁等破損 18 ヵ所 総降雨量 139.6㎜　時間雨量 70.4㎜
1954 年	昭和 29 年	９月 26 日　台風 15 号　総降雨量 100.1㎜　時間雨量 16.2㎜

西暦	和暦	災害等の概要
1957 年	昭和 32 年	7 月 1 日～5 日 大雨　床下浸水 250 戸　崖崩れ 2 ヵ所　総降雨量 251.7mm　時間雨量 26.4mm
1961 年	昭和 36 年	7 月 大雨　床下浸水 135 戸　土砂流出 1 ヵ所
1965 年	昭和 40 年	7 月 18 日～21 日 大雨　全壊 4 戸　半壊 2 戸　床上浸水 107 戸　床下浸水 99 戸　堤防、道路、崖崩れ等 66 ヵ所 総降雨量 290.3mm　時間雨量 34.6mm 7 月 23 日 大雨　半壊 1 戸　床上浸水 20 戸　床下浸水 892 戸 堤防、農道の損壊 4 ヵ所 総降雨量 118.2mm　時間雨量 34.6mm
1966 年	昭和 41 年	9 月 16 日～19 日 大雨　水路、農道崩壊 総降雨量 319.2mm　時間雨量 15.4mm 9 月 23 日～25 日 旧茂陰ポンプ場 完成
1967 年	昭和 42 年	7 月 8 日～9 日 大雨　山崩れ、道路崩壊 総降雨量 135.9mm　時間雨量 27.4mm
1969 年	昭和 44 年	6 月 30 日～7 月 1 日 大雨　道路河川一部崩壊 7 月 7 日～8 日 大雨　崖崩れ、土砂崩れ 総降雨量 218.5mm　時間雨量 21.5mm
1970 年	昭和 45 年	8 月 15 日 台風　道路、水路崩壊 総降雨量 103.5mm　時間雨量 21.0mm
1971 年	昭和 46 年	7 月 22 日～23 日 大雨　崖崩れ(朝泊) 総降雨量 82.5mm　時間雨量 18.0mm   現在の朝泊(空城山の鹿籠方面のふもと、鹿籠2丁目付近と推定)。昔の海岸線であった頃の名残が、地形や名称から窺える。現在は、石写真の「朝泊池」(埋め立て済)しか地名に残されていない。 8 月 5 日 台風　林道一部崩壊 総降雨量 65.5mm　時間雨量 14.0mm
1972 年	昭和 47 年	6 月 10 日～14 日 大雨　受田川法面崩れ　床下浸水 220 戸 総降雨量 227.5mm　時間雨量 30.0mm 7 月 10 日～13 日 大雨　山崩れ(桃山、青崎) 総降雨量 215.5mm　時間雨量 29.0mm 8 月 20 日～21 日 大雨　崖崩れ(千代東) 総降雨量 205.5mm　時間雨量 21.0mm 【20～21 ページに個別記事あり】

西暦	和暦	災害等の概要
1973 年	昭和 48 年	9 月 13 日 大雨　林道、水路一部崩壊 総降雨量 90.5mm　時間雨量 21.0mm
1974 年	昭和 49 年	6 月 4 日 大雨　八幡川溢水　床下浸水 111 戸　道路冠水(向洋駅前・茂陰・浜田地区) 総降雨量 73.5mm　時間雨量 24.0mm 7 月 15 日～18 日 大雨　床下浸水(青崎他 160 戸)　路肩崩れ 総降雨量 184.5mm　時間雨量 23.0mm
1975 年	昭和 50 年	山陽新幹線開通 8 月 17 日 大雨　床下浸水 125 戸(鹿籠中他)　茶臼林道一部崩壊 総降雨量 97.0mm　時間雨量 37.0mm
1976 年	昭和 51 年	消防庁舎 落成(現庁舎) 9 月 8 日～13 日 台風 17 号 総降雨量 224.5mm　時間雨量 17.5mm
1977 年	昭和 52 年	4 月 15 日 大雨　床下浸水 221 戸 総降雨量 49.0mm　時間雨量 23.0mm
1979 年	昭和 54 年	6 月 26 日 大雨　山崩れ　道路破損　床下浸水 11 戸 総降雨量 49.0mm　時間雨量 26.0mm
1980 年	昭和 55 年	8 月 22 日～23 日 大雨　八幡川溢水　床下浸水 142 戸　林道崩壊　道路里道陥没　山崩れ 17 ヵ所 総降雨量 91.5mm　時間雨量 23.0mm 8 月 30 日～31 日 大雨　床下浸水 656 戸　林道法面崩れ　道路里道石積崩壊　山崩れ 17 ヵ所 総降雨量 116.5mm　時間雨量 170mm
1982 年	昭和 57 年	8 月 25 日 大雨　家屋一部損壊 1 戸　床上・床下浸水 656 戸　河川一部崩壊 10 ヵ所　道路一部損壊 7 ヵ所　林道一部損壊 18 ヵ所 総降雨量 214.5mm　時間雨量 49.5mm 千代ポンプ場(新地 3 番 マツダ敷地内)　運転開始
1983 年	昭和 58 年	8 月 25 日 大雨　床下浸水 16 戸 総降雨量 58.0mm　時間雨量 19.0mm 9 月 27 日～28 日 大雨　床下浸水 95 戸　河川一部損壊 2 ヵ所　二砂崩れ 8 ヵ所 総降雨量 211.0mm　時間雨量 25.0mm
1984 年	昭和 59 年	府中ポンプ場(本町 1 丁目 10 番)　運転開始 役場新庁舎 完成(現庁舎)、歴史民俗資料館 開館 6 月 24 日～7 月 3 日 大雨　崖崩れ 3 ヵ所　河川一部損壊 2 ヵ所　林道一部損壊 8 月 12 日～14 日　山林火災　鍋谷山山林焼失面積 18ha
1985 年	昭和 60 年	6 月 24 日 大雨　床下浸水 44 戸　河川一部破損 4 ヵ所 7 月 1 日 道路一部損壊 6 ヵ所　土砂崩れ 33 ヵ所 時間雨量 25.5mm

西暦	和暦	災害等の概要
1987 年	昭和 62 年	入川調整池（大通２丁目 10 番） 運転開始 ７月２日～３日 大雨 床下浸水 11 戸 総降雨量 605.0mm 時間雨量 30.0mm ７月 14 日 大雨 床下浸水 69 戸 総降雨量 79.0mm 時間雨量 39.0mm ８月 13 日 大雨 床下浸水 87 戸 床上浸水１戸 時間雨量 49.0mm
1988 年	昭和 63 年	入川ポンプ場（大通３丁目８番） 運転開始

平成時代

西暦	和暦	災害等の概要
1989 年	平成元年	７月 12 日～13 日 大雨 林道一部路肩崩壊 道路一部破損 床下浸水 17 戸 総降雨量 99.0mm 時間雨量 24.5mm 11 月８日 大雨 床下浸水 117 戸 床上浸水１戸 総降雨量 70.5mm 時間雨量 27.0mm
1990 年	平成２年	６月 13 日～14 日 大雨 床下浸水 18 戸 総降雨量 92.0mm 時間雨量 34.0mm ７月４日～５日 大雨 床下浸水２戸 総降雨量 150.0mm 時間雨量 31.0mm ８月 22 日 大雨 床下浸水２戸 総降雨量 87.5mm 時間雨量 29.0mm
1991 年	平成３年	９月 27 日 台風 19 号 床下浸水 15 戸 公共施設損傷 負傷者３名 最大瞬間風速 58.9m/s 総降雨量 4.5mm 塩害で停電等の被害が発生 【22 ページに個別記事あり】
1992 年	平成４年	宮の町ポンプ場（大通３丁目５番１号） 運転開始
1993 年	平成５年	９月２日～４日 台風 13 号 総降雨量 78.0mm
1994 年	平成６年	全国的な渇水が発生 長期間にわたる給水制限を実施 【23 ページに個別記事あり】
2001 年	平成 13 年	３月 24 日 芸予地震１回目 震源地 安芸灘 最大震度６弱 府中町 震度５強 ３月 26 日 芸予地震２回目 震源地 安芸灘 最大震度５強 【24 ページに個別記事あり】
2003 年	平成 15 年	新型コロナウイルス（ＳＡＲＳ）
2004 年	平成 16 年	９月７日 台風 18 号 最大瞬間風速 30.2m/s 総降雨量 39.0mm ９月 29 日 台風 21 号 負傷者１名 総降雨量 56.0mm

西暦	和暦	災害等の概要
		10 月 29 日 台風 29 号 土砂崩れ１ヵ所 総降雨量 59.0mm
2006 年	平成 18 年	府中ポンプ場（本町１丁目 10 番） 機能強化
2009 年	平成 21 年	新型インフルエンザ（Ｈ１Ｎ１） 茂陰ポンプ場（茂陰２丁目３番 14 号） 移転・設備更新
2012 年	平成 24 年	新型コロナウイルス（ＭＥＲＳ）
2014 年	平成 26 年	８月 19 日～20 日 広島市土砂災害 死者・行方不明者 74 名 負傷者 44 名 家屋全壊 133 戸 半壊 122 戸 一部損壊 175 戸 床上浸水 1,301 戸 床下浸水 2,828 戸 総降雨量 287.0mm 時間雨量 115.0mm 【26 ページに個別記事あり】
2016 年	平成 28 年	６月 21 日～24 日 大雨 土砂崩れ・法面崩壊など 15 ヵ所 府中大川水位 1.67m 総降雨量 149.0mm 時間雨量 52.0mm ９月 17 日 台風 16 号の影響による局地豪雨 町内各地で冠水発生 総降雨量 77.0mm 時間雨量 69.0mm 【27～29 ページに個別記事あり】
2018 年	平成 30 年	７月６日～７日 大雨 負傷者２名 土砂災害 27 ヵ所 浸水害(榎川) 避難者 2,258 名 府中大川水位 2.75m 総降雨量 431.0mm 時間雨量 65.0mm ７月 10 日 榎川越水 住宅等被害 136 件 企業店舗被害６件 公共施設損傷 【30～87 ページに個別記事あり】

令和時代とこれから

西暦	和暦	災害等の概要
2019 年	令和元年	12 月 31 日 中国武漢市保健当局が原因不明肺炎の患者 27 名発生を公式発表（最初の患者の発症日は 12 月８日）
2020 年	令和２年	〔新型コロナウイルス感染症関連〕 １月７日 世界保健機関（WHO）が原因不明肺炎の患者から新型コロナウイルスが検出された旨を全世界に発表 １月 16 日 中国武漢市から帰国した男性から、国内で初めて新型コロナウイルスを検出 ２月 11 日 WHOが新型コロナウイルスの正式名称を「ＳＡＲＳ-ＣｏＶ-２」、このウイルスによる疾患名を「ＣＯＶＩＤ-１９」と発表 ３月２日 県立学校の一斉休校 ３月７日 県内初の新型コロナウイルス患者を公表（広島市在住） ３月 11 日 WHOがパンデミック（世界的流行）を宣言 ４月３日 府中町内初の新型コロナウイルス患者を公表 ４月 19 日 県内で初の感染死者

西暦	和暦	災害等の概要
		7月5日～8日 大雨　榎川護岸3ヵ所崩壊　ため池2ヵ所損壊 林道4ヵ所崩壊　水分峡森林公園1ヵ所崩壊 民地崖崩れ4ヵ所　避難者235名 総降雨量2.7.0mm　時間雨量20.0mm
2021年	令和3年	新型コロナ禍でのオリンピック・パラリンピック、無観客開催 7月6日～12日 大雨　床下浸水2戸　林道3ヵ所崩壊　水分峡森林公園2ヵ所崩壊　里道陥没　総降雨量267.0mm　時間雨量43.0mm 8月8日～19日 台風9号及び秋雨前線による豪雨　総降雨量513.0mm　時間雨量29.0mm

第３章　過去に発生した特筆すべき自然災害

大規模氾濫により死者を出した大正15年9月11日大雨

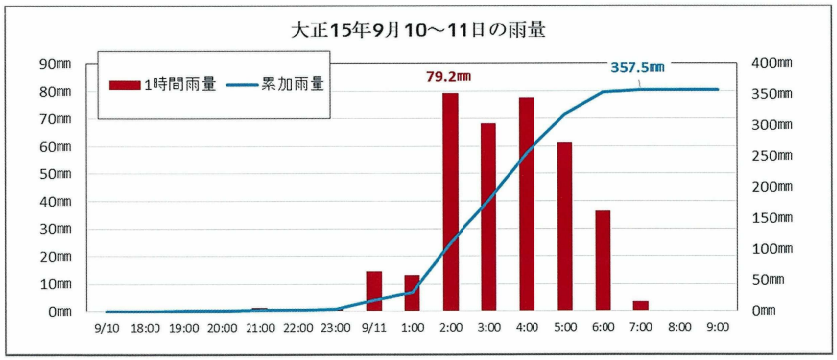
- 被害場所　　府中町北部一帯
- 最大雨量　　79.2mm/h
- 累加雨量　　357.5mm
- 災害発生までの経緯

大正15年9月10日	23：00	晴天で星空
大正15年9月11日	0：00	黒い雲が空を覆いバケツをひっくり返したような大雨となる
	1：00	各河川が満水となる
	2：00	各地で被害が出はじめる
	3：00	各河川の橋脚が流れはじめる
	4：00	数ヵ所の堤防が決壊し土砂・流木が流れ込む

- 気象状況

大正15年9月11日に発生した豪雨は、広島市を中心に周囲約10キロメートルの非常に狭い地域を襲い、広島測候所では、総雨量357.5ミリを記録し、観測史上最大の降雨となった。

大雨のピークは午前1時から6時までの5時間で、最大時間雨量79.2ミリで5時間の時間雨量の合計は322.8ミリという記録的なものであった。広島周辺では、厳島で総雨量285.2ミリ、廿日市で248ミリに達している。（広島県気象年報大正13年～昭和4年、広島測候所資料）



● 被害状況

大正15年9月11日午前6時までに降り続いた豪雨により、府中村内の共私有山の各所で崩壊が生じ、また、河床が埋没して大氾濫が発生した。被害が最も激しかった場所は、本村北部の御衣尾、五反田、大年(現山田)、山田、砂原、石井城、江本寺、経面、大樋ノ口、鶴江、大須及び南部の八幡、茂陰の一帯である。

人的被害

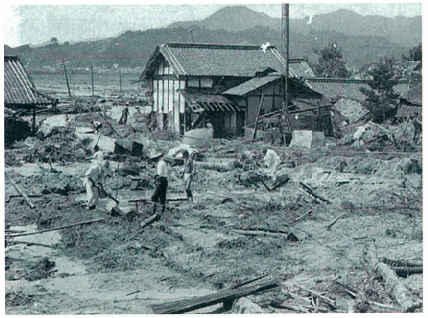
死者…… 3名
負傷者…… 3名

家屋被害状況

全流出…… 20戸
全潰(全壊)…… 10戸
全埋没…… 49戸
半壊埋没…… 42戸
付属建物流出…… 6戸
床上土砂流入…… 29戸
計…… 156戸

河川の損傷状況

府中大川…… 欠損、6ヵ所(延べ2,100m)
榎川…… 欠損、9ヵ所(延べ2,000m)
御衣尾川…… 欠損、2ヵ所(延べ1,100m)
山田川…… 欠損、13ヵ所(延べ790m)
八幡川…… 欠損、5ヵ所(延べ360m)
計…… 35ヵ所(延べ6,400m)
橋脚流出… 20橋梁



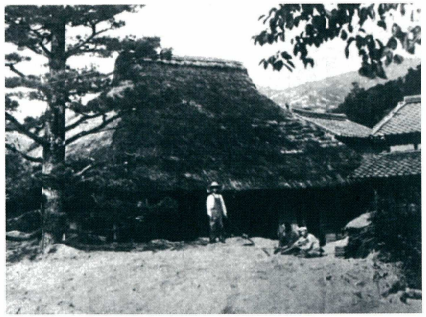
石井城(現 石井城1丁目)



五反田(現 みくまり2丁目)



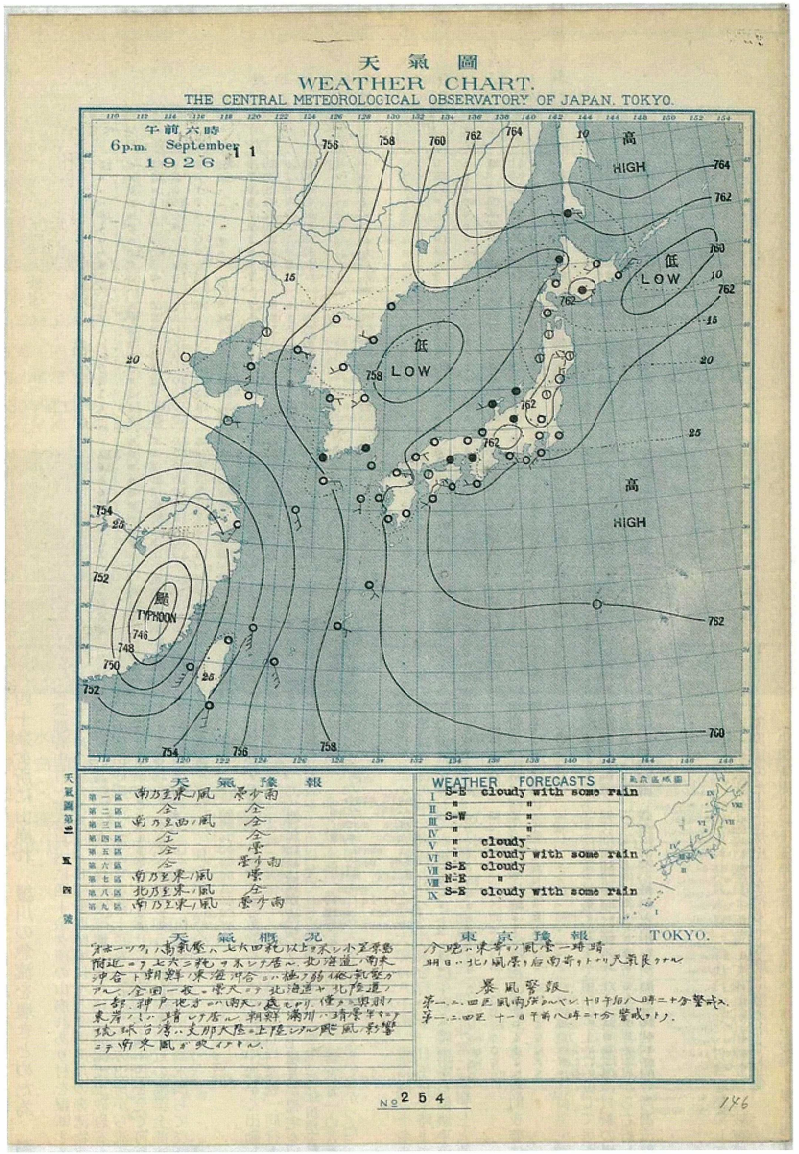
御衣尾(現 みくまり3丁目)



床上まで押し寄せた土砂を撤去する様子

出典:安芸府中町史第一巻 第五章第三節

● 当時の天気図



原典:気象庁「天気図」、加工:国立情報学研究所「デジタル台風」

● 当時の新聞記事

[redacted]

● 大正 15 年 9 月 11 日 広島豪雨の伝承碑



水害碑
広島市東区温品７丁目、清水谷神社入口 八幡橋西詰
犠牲者・・・・4名
災害の種類・・洪水・土石流（温品川）
1930年建立　（昭和5年）



水害記念碑
安芸郡府中町宮の町 、埃の宮公園内
犠牲者・・・・3名
災害の種類・・洪水・土石流（榎川）
1944年建立　（昭和19年）



畑賀村水害碑
広島市安芸区畑賀3丁目、畑賀小学校敷地内
犠牲者・・・・36名(列車転覆含む)
災害の種類・・洪水・土石流（畑賀川）
1930年建立　（昭和5年）



水害記念碑
広島市安芸区中野1丁目、畑賀川東、JR山陽線そば
犠牲者・・・・36名(列車転覆含む)
災害の種類・・洪水・土石流（畑賀川）
1935年建立　（昭和10年）

府中町南部で災害続きとなった昭和 47 年のあばれつゆと７月豪雨

1. あばれつゆ（台風３号崩れ（温帯低気圧に変化）・昭和 47 年６月 10 日～14 日）

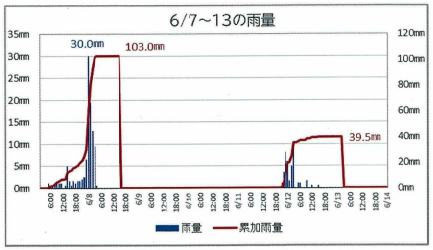
● 被害場所

・受田川（※）法面崩れ（現 柳ヶ丘 85 街区付近）
・青崎、青崎中、青崎東周辺で床下浸水 220 戸
・現ＪＲ向洋駅構内の線路が 70 ミリ冠水し、上下線 62 本が不通（6/8 1：00～2：55）

※受田川…府中町の南部と一部安芸区船越町との境界を流れ、受田橋を経て南区堀越町の的場川にそそぐ河川。河川延長 800 メートル、川幅１メートル程度の小川で、流路の最大勾配は 49 度と大きいが、平時の水量は少ない。受田川は現在、一部分を除いて暗渠となっていて全容を知ることはできない。昭和 62 年度の受田排水区事業で暗渠にしたと思われる。

● 最大雨量　30mm/h

● 総雨量　227.5mm



受田川法面　土砂崩れの場所



2. 昭和 47 年７月豪雨　（昭和 47 年７月 10 日～13 日）

昭和 47 年７月豪雨とは、1972 年７月に発生した水害で、気象庁によって命名された。７月３日～13 日まで長雨が続いて、全国的に大きな損壊を発生させた気象被害である。

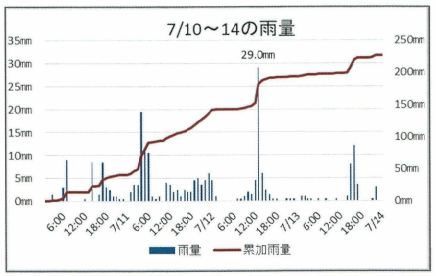
府中町では人的被害はなかったが、崖崩れが発生した。なお、府中町南部は海抜が低く当時は排水機能が低いことから、時間雨量 30 ミリ程度の雨量でも床下浸水や道路の冠水などの水害が慢性化していた。

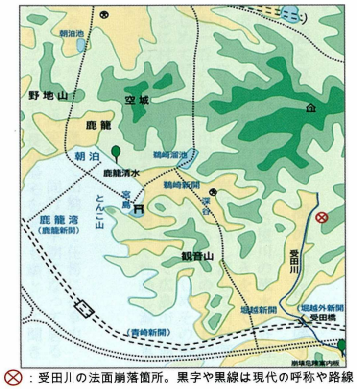
右下図は、1680 年（江戸時代）頃の府中町南部の予想図。当時海だった場所は、低地であることから現在も浸水害等のリスクが高い地域と考えられる。

● 被害場所　桃山・青崎 山崩れ

● 最大雨量　29mm/h

● 総雨量　215.5mm





⊗：受田川の法面崩落箇所。黒字や黒線は現代の呼称や路線

3. 昭和 47 年８月 20 日～21 日の大雨

● 被害場所　千代東 崖崩れ

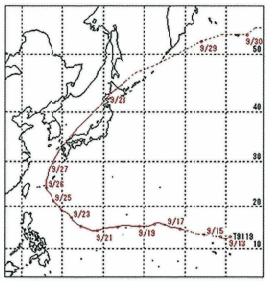
● 最大雨量　21mm/h

● 総雨量　205.5mm

塩害で停電・樹木枯れを引き起こした平成３年台風 19 号

● 台風の概要

・名称　　りんご台風（通称）
・強さ　　非常に強い
・速さ　　20km/h
・中心気圧　　925 hPa
・最大潮位　　296cm（広島港）
・暴風域　　中心から 750km
・最大瞬間風速　58.9m/s（広島市・歴代２位）
・最大風速　　36.0m/s（歴代１位）



● 気象状況

台風 19 号は９月 16 日発生。27 日 16 時過ぎに長崎県佐世保に上陸、その後加速しながら日本海を北上し、各地で猛烈な風による死者が多数発生した。暴風域の広さが 750 キロメートルと極めて巨大であったために、影響は全国に及んだ。典型的なかぜ台風で、各地で倒木や、屋根の崩壊、高潮害、塩風害を出した。青森県のリンゴ落果から、「りんご台風」と称された。最大風速（10 分平均）36.0 メートルは広島県歴代１位、最大瞬間風速 58.9 メートルは広島県歴代２位(本書発行日現在)。

● 県内被害状況

広島県では降雨がほとんどなかったことから塩害が発生し、長期間にわたる停電となった。海上では満潮時と重なり記録的な高潮で、牡蠣いかだの流出、厳島神社の回廊冠水・国宝建物の損壊などの記録的な被害をもたらした。

人的被害
死者…… 6 名
負傷者…… 49 名

家屋被害状況
全壊…… 50 戸
半壊…… 442 戸
一部損壊…… 22,661 戸
計…… 23,153 戸

その他塩害・火災
停電…… 960,000 戸
うち塩害…… 550,000 戸
最長停電時間… 154 時間
（約７日間）
火災…… 25 件

火災の内容		発生件数
電気によるもの	屋外高圧線によるもの	1 件
	海水による短絡	7 件
	引き込み線の火花落下	1 件
	電気冷蔵庫のスパーク	1 件
	過電流によるもの	1 件
	漏電	3 件
	スパーク	1 件
	絶縁劣化による発熱	1 件
	通電放置（ドライヤー、キッチンヒーター）	2 件
	計	18 件
ロウソクによるもの		6 件
たき火によるもの		1 件
合計		25 件

広島市

● 広島県内各病院の停電等対応

・広島市民病院：送配電設備が地下埋設方式だったため、停電時間は約２時間。断水もなく、自家発電で十分に対応できた。
・安佐市民病院：約８時間停電、自家発電で対応。
・県立広島病院：約７時間停電、自家発電で対応。断水なし。
・市立舟入病院：計９時間停電、自家発電で最小限対応。自家発電は立ち上がりに 40 秒を要し、また自家発電用の燃料不足で長時間発電に限界があった。
停電中は断水にて給水車対応。

全国各地で給水制限を実施した平成６年渇水

● 気象状況

平成６年(1994 年)は、６月から少雨の傾向が続き、６月は冷夏、７月～８月は記録的な高温・少雨で、多くの地域で降水量不足が発生した。

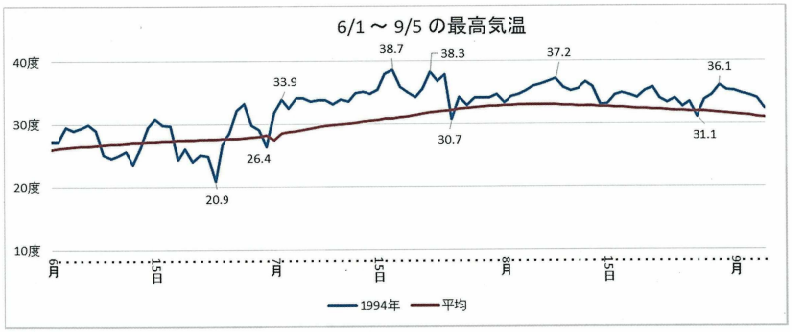
この年、広島県では、７月 18 日に 38.7 度を筆頭に県内の４地点で 38 度以上を記録し、最高気温 30 度以上の日数が 83 日あった。

● 被害状況

県内各地の貯水ダムでは水不足が発生し、因島では１ヶ月以上も断水が続いた。広島県では 11 市 32 町が給水制限（府中町も８月 19 日から 97 日間の給水制限(減圧)）を受けている。全国の農業被害額は 1,400 億円、工業被害も 350 億円に上った。

主な渇水記録	渇水名	発生年月		地域	給水制限期間	給水制限
	東京五輪渇水	S39年	(1964年)	東京都	1964. 7. 10～10. 1	84日間
	長崎渇水	S42年	(1967年)	長崎市	1967. 9. 25～12. 5	72日間
	高松砂漠	S48年	(1973年)	高松市	1973. 7. 13～9. 8	58日間
	福岡渇水	S53年	(1978年)	福岡市	1978. 5. 20～1979. 3. 23	287日間
	首都圏渇水	S62年	(1987年)	東京都ほか	1987. 6. 16～8. 25	71日間
	列島渇水	H06年	(1994年)	西日本	1994. 7. 11～1995. 5. 31	295日間

● 広島県の気象データ





1994 年は例年と比べると極端に降水量が少ない

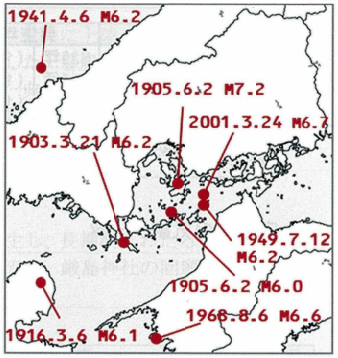
定期的に発生している芸予地震

平成 13 年３月に発生した芸予地震は、過去何度も瀬戸内海の安芸灘を震源として、広島県・山口県東部と愛媛県に大きな被害をもたらしてきた。最近では、1905 年(明治 38 年)と 2001 年(平成 13 年)の２回発生し、主な被害は広島県下に集中している。2001 年芸予地震で最も多くの被害を出したのは呉市で、島しょ部では断水被害が３日間続いた。また、この頃からエレベーター閉じ込め事例も多く出始め、2009 年９月以降設置分からは、地震時管制運転装置の設置が義務づけられることとなった。

この地震をきっかけに、「自分の身は自分で守る」という自助の必要性が発生し、住民の防災に対する意識が高揚したことから、各地区で自主防災組織の設立が加速した。

● 地震情報（１回目）

・日時　　平成 13 年３月 24 日 15 時 28 分頃
・震源地　　安芸灘（北緯 34.1 度 東経 132.7 度）
・震源の深さ　51km
・各地の震度　震度６弱　河内町、大崎町、熊野町
　震度５強　広島市、府中町、海田町、
　呉市、倉橋町、黒瀬町など 19 市町
・津波の影響　なし



● 地震情報（２回目）

・日時　　平成 13 年３月 26 日 ５時 41 分頃
・震源地　　安芸灘（北緯 34.1 度 東経 132.7 度）
・震源の深さ　50km
・各地の震度　震度５強　河内町
・津波の影響　なし

● 被害状況

	広島県	山口県	岡山県	島根県	愛媛県	香川県	高知県	福岡県	計
死者	1				1				2
負傷者	193	12	1	3	46		4	1	260
全壊	27	7			1				35
半壊	155	26			2				183
一部破壊	23,718	1,312	17	10	2,470	6	12		27,545

※ 呉市でブロック壁の下敷きとなり１人圧死

停電　35,108 戸〔広島市、三原市、呉市、賀茂郡〕
　復旧日時（最長）　平成 13 年３月 24 日 19：08（３時間 40 分後）

ガス漏れ　442 戸

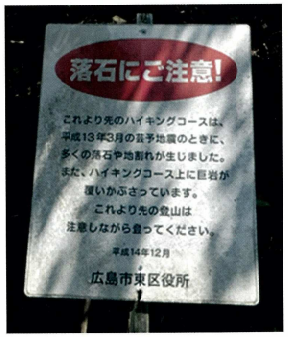
断水　47,767 戸、252 ヵ所〔主に呉市、三原市〕
　復旧日時（最長）　平成 13 年３月 27 日 ７：00（２日と 15 時間、島しょ部）

電話　通信不能のため、「災害用伝言ダイヤル」の運営開始
　開始日時　平成 13 年３月 24 日 17：20 から
　登録件数　33,467 件

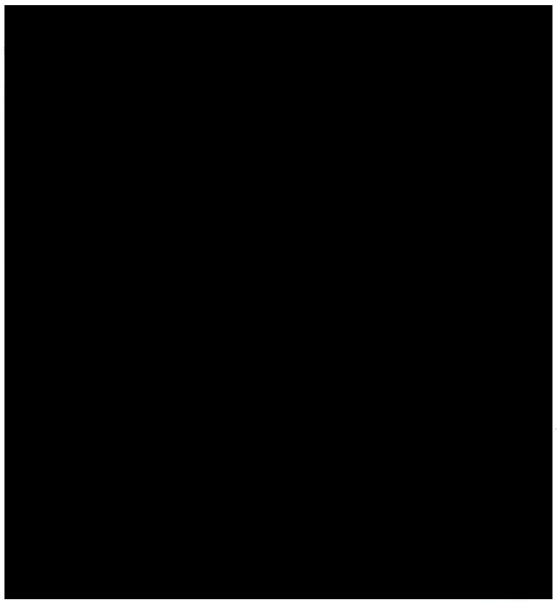
火災　４件

● 府中町近隣の被害状況

・府中大川　堤防天端及び護岸に陥没・クラック
・登山道での落石等発生
・府中東小学校 コンクリート支柱の剥離、体育館天井の一部落下、石膏像の倒壊
・府中北小学校 屋根瓦落下
・府中南小学校 渡り廊下被災



高尾山 登山口の案内板







府中東小学校のコンクリート支柱



府中北小学校 屋根瓦落下箇所



府中東小学校 石膏像倒壊

線状降水帯で 74 名の死者を出した平成 26 年 8 月 20 日 広島市土砂災害

● 日時　　平成 26 年 8 月 19 日(火)～8 月 20 日(水)の主に深夜帯

● 被害状況

人的被害

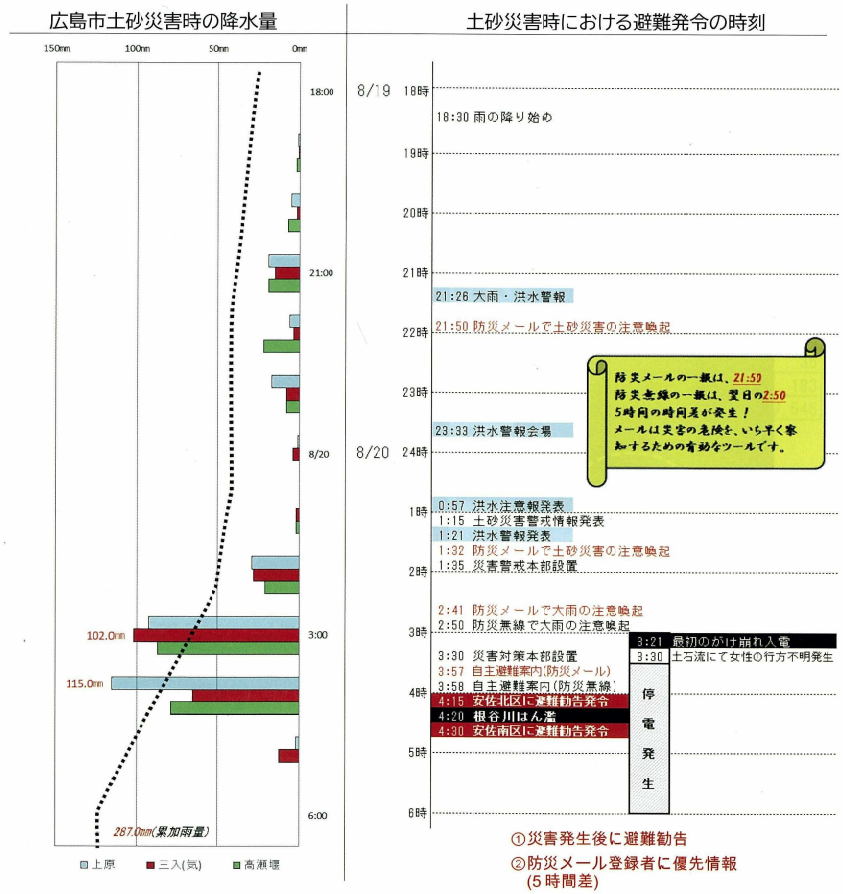
死者・行方不明者	74 名
負傷者	44 名

家屋被害状況

全壊	133 戸
半壊	122 戸
一部損壊	175 戸
床上浸水	1,301 戸
床下浸水	2,828 戸
計	4,559 戸



● 土砂災害発生時の降水量と避難発令の時間比較



水位基準見直しのきっかけとなった平成 28 年 6 月大雨

● 日時　平成 28 年 6 月 21 日(火)～6 月 24 日(金)

● 気象状況

6 月 19 日から 25 日にかけて本州付近に梅雨前線が停滞し、その前線上を次々と低気圧が通過した。その後前線は南下し、一時活動が弱まったが、27 日以降再び本州付近に北上し活動が活発になった。これらの影響で、西日本を中心に大雨となり鹿児島、熊本では大きな被害が発生。

広島県内では、6 月 22 日大竹市で時間雨量 112.0 ミリを記録。府中大川では、「はん濫危険水位」を超えたため広島市東区に避難勧告が発令された。

● 警報等

6 月 21 日	1：26	避難勧告発令(矢賀・温品・中山など)	府中大川のはん濫危険水位
	1：35	大雨警報発令（府中町）	
	2：30	大雨・洪水警報発令（府中町）	
6 月 23 日	0：50	避難勧告発令(矢賀・温品・中山など)	府中大川のはん濫危険水位
	1：00	避難勧告発令(荒神町・大州学区など)	府中大川のはん濫危険水位
6 月 24 日	13：00	避難勧告発令(矢賀・温品・中山など)	避難基準雨量

● 被害状況

・町内の土砂崩れ、法面崩壊など計 15 ヵ所
・広島県下では、負傷者 2 名ほか住宅被害・がけ崩れ発生。
・6 月 27 日三次市では 200 戸が停電

● 記録

・大須水位観測所（府中大川）の水位

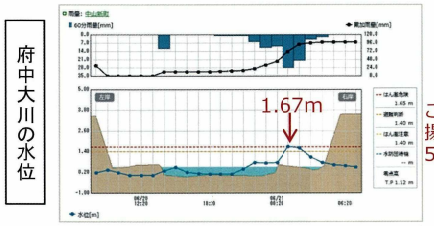
	旧基準	新基準(※)
はん濫危険水位	2.35 m	1.65 m
避難判断水位	1.65 m	1.40 m
はん濫注意水位	1.40 m	1.40 m

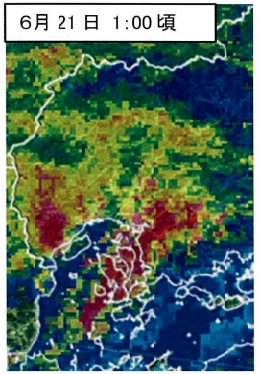
府中大川の最高水位…2.38m
(平成 22 年 7 月 13 日 9：00)
堤防高 右岸…3.61m（水位計設置側）
左岸…3.57m

※平成 28 年 5 月 31 日～変更。変更理由は、堤防の整備水準が低い中流域の被害が想定されたため。だが、この基準は下流に位置する府中町としては、避難の開始が早くなりすぎる基準であった。本災害で、同じ河川の避難情報の判断が、自治体ごとに分かれたことなどについて問題となり、翌年 5 月に上流・下流域で基準を分けて運用するきっかけとなった。

・大須水位観測所の位置等

設置場所　　府中町大須 3 丁目 新石井尻橋下流
観測区間　　上温品(第 2 夏山橋)～猿猴川合流点
基準水位設定地　温品中学校付近の左岸（当時）







● 府中町の被害状況

浜田三丁目１番街区 ペルル府中壱番館北



桜ヶ丘 20 番街区 民家の裏山



城ヶ丘 28 番街区 民家裏 駐車場の石垣



浜田二丁目 20 番街区 空城山公園西側民家前



呉娑々宇林道 1.0 km地点



みくまり一丁目１番街区 府中北小学校裏



護岸や低地の雨水流入等の被害があった平成 28 年９月豪雨

● 台風の概要

・名称　　ＭＡＬＡＫＡＳ（マラカス）
・強さ　　非常に強い
・速さ　　25km/h
・中心気圧　945 hPa
・暴風域　　中心から 110km
・最大風速　60.0m/s （歴代１位）
・時間雨量　69.0mm/h （９月 17 日 22：00）
・分間雨量　20.5mm/m



● 気象状況

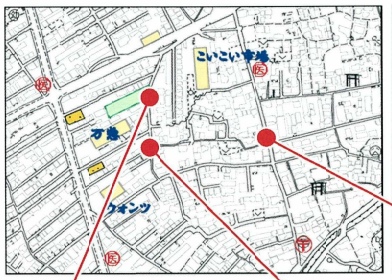
台風 16 号は、平成 28 年９月 20 日０時過ぎ 945 ヘクトパスカル、最大風速 45 メートルの強い勢力のまま鹿児島県大隅半島に上陸。四国南岸を経て東海道沖で低気圧に変わった。台風と前線の影響で鹿児島県では時間雨量 115.0 ミリの猛烈な雨を記録。

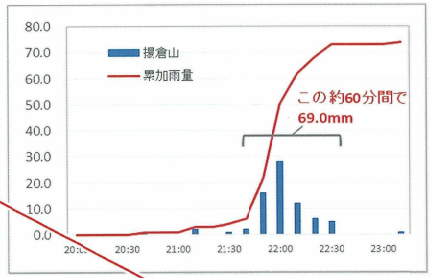
府中町では９月 17 日、揚倉山の雨量観測所で時間雨量 69.0 ミリの局地豪雨（揚倉山観測所では１位の記録）、府中大川で 2.03 メートルの水位を記録し、低地では瞬間的に道路が冠水した。

● 被害状況

台風は、南の四国沖を通過し日本を縦断、九州と四国、近畿では被害が発生したが、広島県内では山陽線の運行停止や各地で冠水、避難指示等は発令されたものの大きな被害は発生しなかった。

府中町では土砂災害などの被害は無かったが、町内各地で冠水が発生。局地豪雨に対する排水機能の不足が現実化した。







本町四丁目４番４号 海抜 2.3m



本町四丁目４番 15 号 海抜 2.5m



石井城一丁目 10 番 19 号 海抜 3.5m

ゲリラ豪雨、局地豪雨

「にわか雨」や「夕立」を、「ゲリラ豪雨」「局地豪雨」とメディアが表現した言葉で、気象学では「集中豪雨」「短時間大雨」と呼ばれている。

「ゲリラ豪雨」は 2008 年には新流行語大賞として選出されている。

線状降水帯が発生した平成 30 年 7 月西日本豪雨災害

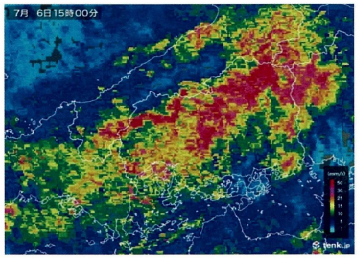
1部. 発生時の気象情報と時系列表

● 日時　平成 30 年 7 月 5 日(木) ～ 8 月 2 日(木)

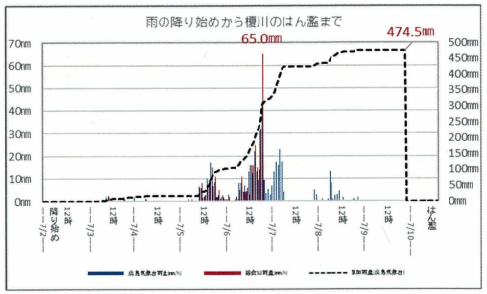
7 月 6 日	19：00	榎川各地の護岸の被災が続発
	19：30	各地の山際で土砂崩れ発生
7 月 10 日	11：05	榎川の寺山橋付近ではん濫発生

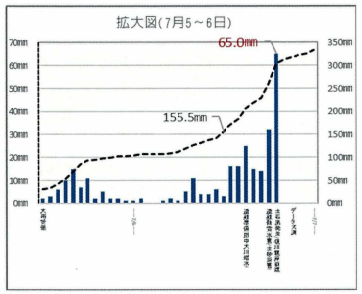
● 天気図（7/6 15：00）





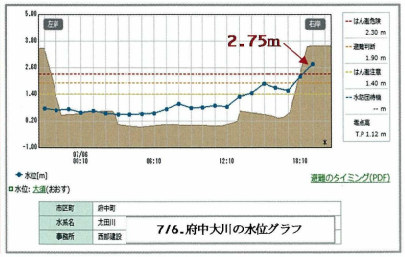
● 時系列でみる雨量とはん濫



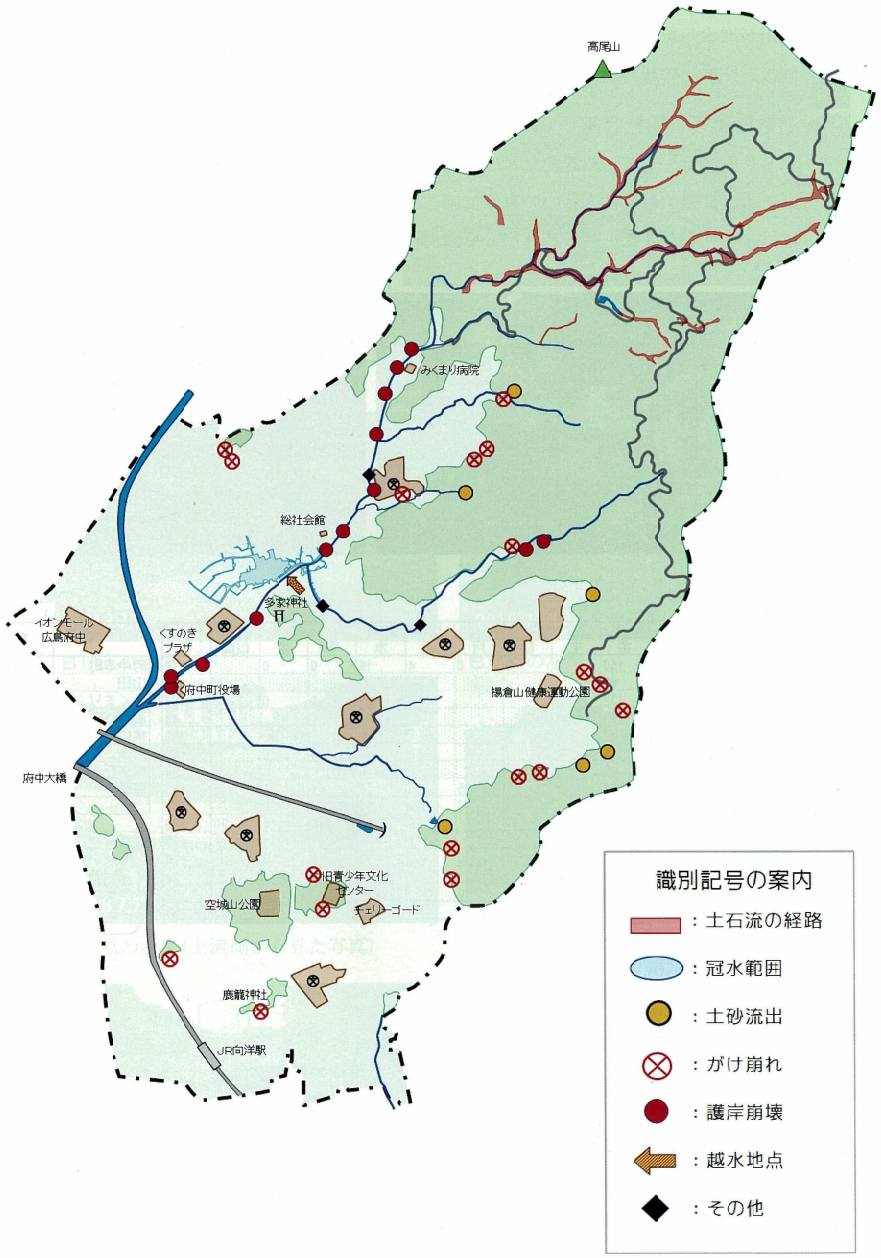


7/2
5:00・・・雨の降り始め
7/5
12:38・・・大雨警報
7/6
5:40・・・大雨警報
15:05・・・避難準備(府中大川増水)
18:25・・・榎川水位・・・・・1.20m
18:46・・・避難勧告(府中大川はん濫の危険性が高い)
18:48・・・避難勧告(土砂災害の危険性が高い)
19:00・・・時間雨量・・・・・65mm/h(累加:304mm)
19:00・・・榎川の護岸被災
19:01・・・榎川水位・・・・・2.00m
19:10・・・府中大川水位・・2.75m(過去、最高)
19:20・・・観測データ欠測(雨量/水位)
19:30・・・清水ケ丘で傾斜地崩壊
19:40・・・特別警報
19:50・・・避難指示

7/10
7:30・・・榎川水位・・・・・0.92m
10:59・・・榎川はん濫(寺山橋)
11:00・・・土石流が水分峡病院前激突
11:05・・・住民より110番通報
11:14・・・寺山橋のはん濫
11:25・・・避難指示(榎川はん濫)



● 府中町全体の被害箇所図（7/5～7/10）



２部．大雨による被害（7/6～7/8）

● 当時の様子

７月２日から断続的に降っていた雨が、６日の午後からだんだん激しくなり、府中大川や榎川が増水していく。夕方には、洪水・土砂災害による避難勧告が発令され、町内各地で土砂災害や河川の護岸崩壊が発生し、６日 19 時頃には時間雨量 65 ミリを記録した。

● 避難所風景（総社会館）

避難所では、毛布・非常食などの数量は限られている。一晩といえど、他人との共存生活である。日頃の近所付き合いの有無で過ごしやすさは変わる。靴(長靴)・傘・スリッパなどには、名札が必要だ。ぜひ持ち出し品に付けて準備してほしい。





避難所と避難者数
（ 7/6～8/4 ）

	7/6 金	7/7 土	7/8 日	7/9 月	7/10 火	7/11 水	7/12 木	7/13 金	7/14 以降	計
府中北小学校	150	0	0	0	4	16	0	0		170
府中東小学校	65									65
府中小学校	132	0			40	25	0	0		197
府中中央小学校	33	15								48
府中南小学校	30	0								30
府中中学校	100	35			30	4	0	0		169
府中緑ケ丘中学校	30									30
総社会館	234	11	5	5	66	16	11	10	115	473
東地区センター	100	4	0	0	42	17	1	0		164
くすのきプラザ	127				65	72	18	14	90	386
府中町役場	12				111					123
福寿館	200	11	0	0	49	13	0	0		273
ふれあい福祉センター	4	24								28
府中南交流センター	92	10	0	0						102
計	1,309	110	5	5	407	163	30	24	205	2,258

：開所していない

ボランティア受付数
（ 7/11～8/10 ）

	計
府中本町	1,000
山田	466
みくまり	224
瀬戸ハイム	96
桃山	83
浜田	56
柳ケ丘	7
鹿篭	9
	1,941
三翁神社	1,086

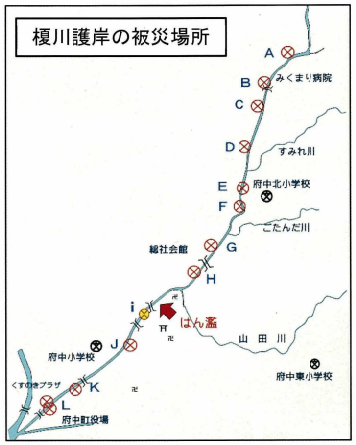
避難者数 2,258人

1. 榎川流域の被害

(1) 概要

榎川は、７月６日 19 時頃から全域にわたって護岸の崩壊が始まった。次の写真は、みくまり病院前にある御衣尾橋に土石流が激突し護岸のカーブミラーが倒壊している写真である。この数日後に再度、土石流が発生するとは誰も想像できなかっただろう。以下、地図に沿って被災写真を掲載している。

(2) 被災箇所



地図のＢ地点、みくまり病院前の御衣尾橋に土石流が激突する瞬間



Ａ地点の右岸





Ｂ地点の右岸



Ｂ地点の左岸



Ｂ地点の右岸（上流側から見た写真）



線香水の小径からＢ地点を望む
（左の建物がみくまり病院）



C地点の右岸（下流側から見た写真）



上流側から見た同一場所



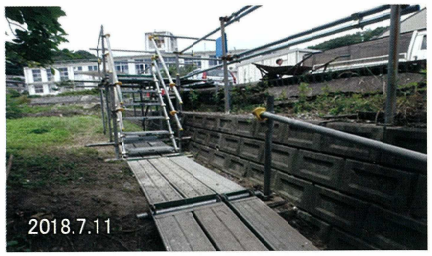
C地点の対岸から見た写真



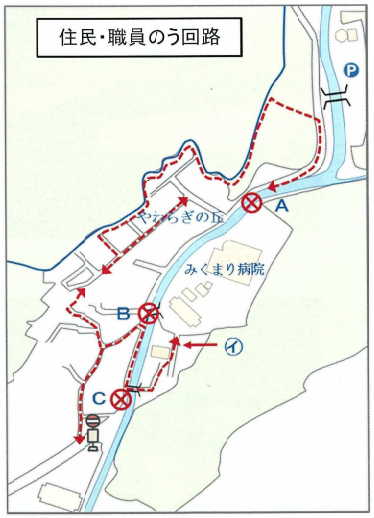


生活路や通勤路を失った人々は、地域の方々の協力を得て、私有地の敷地内を通行させてもらったり、一時駐車場の提供を受けるなどした。う回路の通行には、普段の数倍の遠回りを強いられ、１ヶ月近く不自由な生活を経験した。

右図の㋑
民家のブロック塀を乗り越えてのう回路。
私有地内の通行に感謝します。

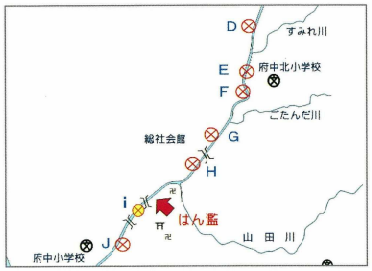






D地点の右岸





E地点　私製の橋にかかる流れ出たコアストーン





F地点　烏帽子橋下流の民家



両岸が崩れ、民家の庭が陥落



G地点　五反田橋下流の右岸



五反田橋から見た同一場所



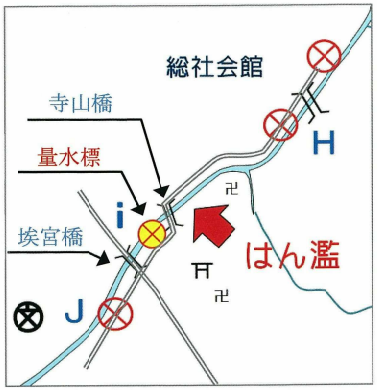
H地点　総社橋下流の右岸



濁流の衝撃で堤防の中まで洗堀された護岸



i 地点　榎川の水位



この時、避難勧告は発令されていたが、「府中大川のはん濫」に対する危険情報であって、榎川については何かの危険信号を発するべきだったか・・水位計の運用と情報が共有されていなかったことが悔やまれる。

現在は、この災害の後に埃宮橋に設置された危機管理型水位計を参照して、府中町から避難情報が発信される運用となっている。

i 地点　埃宮橋から陸橋たもとの量水標を確認





１２０cm

i 地点上流　寺山橋を下流から確認





２００cm



なお、府中大川の量水標は、府中北交流センターの向かい、新石井尻橋の近くに設置されている。

J 地点　府中小学校の対岸





K 地点　文化橋の下流の左岸(7/6 深夜、1 名が落下)





L 地点　府中町役場庁舎前





L 地点　右岸の本町公園



亀裂が入った本町公園のグランド



(3) 河川の水面と水位

榎川の水位（7/6 19:00～ 榎川護岸の崩壊が始まる）



府中大川の水位（7/6 18:46～避難勧告　府中大川のはん濫の危険性が高い）
過去の最高水位：275 cm(2018.7.6 19:10)





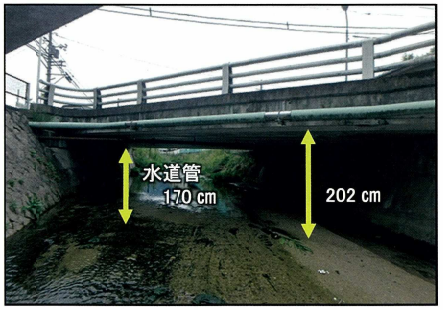


★ 水位の上昇は、写真とデータから２度
発生したことが分かる（7/5～7/11）



No.	河床から工作物間の距離	センチ
1	山 田 大 橋	245cm
2	龍泉寺上流側水道管	235cm
3	龍 泉 寺 橋	240cm
4	寺　山　橋	202cm
5	寺山橋下部水道管	170cm
6	寺山橋歩道橋	217cm
7	寺山橋下流側水道管	234cm
8	埃宮橋上流側水道管	175cm
9	埃宮橋歩道橋	175cm
10	埃　宮　橋	174cm
11	埃宮橋下流側水道管(黄色)	160cm
12	同、水道管の補強部	150cm
13	榎　　橋	215cm
14	消 防 署 前 橋	220cm
15	消防署前橋下流左岸(犬走)	80cm

平常時の寺山橋と河床との距離



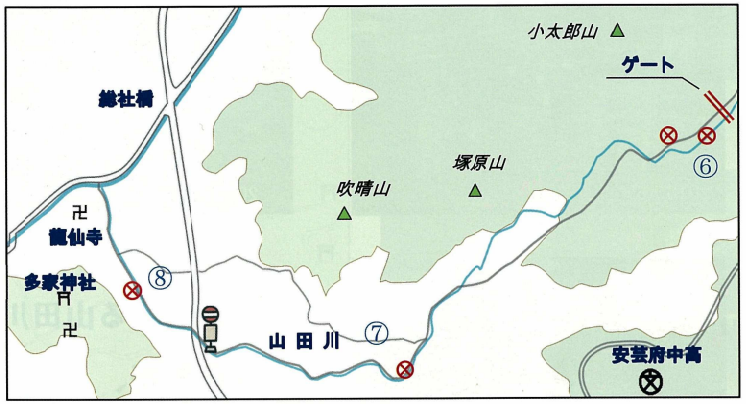
2. 山田川流域の被害

(1) 概要

山田川は、府中町が管理する普通河川である。昭和 38 年に開設された長尾林道沿いに流れており、周囲は私有地が散見される。下流の住宅街に入ると、住宅建設が優先されて水路は狭く急角度となり、はん濫を誘発し易い環境となっている。

奥深い河川で、昔からたびたびはん濫をしていた。大正 15 年９月 11 日の広島豪雨でもはん濫したことがあり、その後川幅を倍ぐらいに広げ、空積みとはいえ石垣を作った。引き続き砂防ダムや治山ダムを重点的に整備して行く必要がある（平成 26 年９月 12 日府中町議会定例会にて和多利町長談を一部抜粋・要約）。

(2) 被災箇所



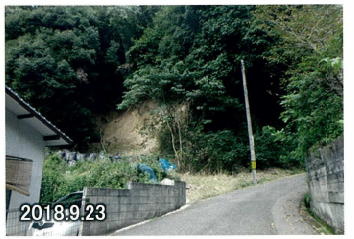
長尾林道のゲート



山田川上流、長尾林道ゲート手前の護岸崩落



⑥地点　山田川上流、長尾林道ゲート手前の法面崩壊





⑦地点　山田四丁目１番街区 … 山田川がオーバーフロー(越水)して金網がゆがむ





⑧地点　山田一丁目５番街区 … 土嚢で流入阻止、素早い作業!!







暴れている山田川

大雨警報、

避難指示発令中



平常日の水量が
少ない山田川

3. 桜ヶ丘～みくまり周辺の土砂災害

(1) 概要

榎川護岸の崩落と相前後して、府中町北部の山際では傾斜地からの土砂崩れが発生した。町内会で備蓄している土嚢袋はすぐに底をつき、近隣の町内会へ土嚢袋を依頼するも、道路・橋が寸断され、土嚢袋が間に合わず被害が拡大していった。

(2) 被災箇所



①地点　桜ヶ丘団地、奥入林道からの土砂流出。角入林道は昭和27年度に開設された625mの林道で、以前は住民が散策に親しむ谷間だった。







②地点　桜ヶ丘団地の住宅。土砂が瞬時に室内へ。避難所生活が長く続いた。



住民で積み上げた土嚢



③地点　清水ヶ丘団地の住宅



清水ヶ丘団地の住宅は、昭和 49 年に完成。団地内には２つの公園を備え、府中町内が一望できる高台の団地である。

７月６日 19：30 頃、団地の最上部にある貯水タンク敷地の法面が地響きを伴って崩れ、真下の住宅に土砂が流れ込み、住民を恐怖に巻き込んだ。

清水ヶ丘団地では、上部から流れ込む泥土の流入を阻止するため、土嚢袋で防御した。

上記住宅の向かいの斜面







④地点　清水ヶ丘団地の私設駐車場の崩落　　谷底に駐車していた車が１台落下している









上の写真は、清水ヶ丘にある私設の駐車場で、他の災害と同様に７月６日に崩落。谷底には駐車中の車両が土砂とともに落下している。

また、落下した土砂は下流の五反田集落へ流れ込み、大きな被害を生む。（下図を参照）

清水ヶ丘の④地点から五反田地区への土砂の流れ



後日、谷底から駐車場を見上げる



五反田地区は、清水ヶ丘と清水谷の二方向からの土砂流出で被害が大きくなる

清水谷から出た泥土



清水ヶ丘から流出した倒木・流木を含んだ土砂



⑤地点　五反田地区の住宅に泥土が直撃・流入





五反田地区の生活道の通路は泥水の道に変わる











五反田地区では、災害の教訓を得て住民の協力もあり道路の拡張、砂防堰堤の設置と防災インフラが整備されつつある。(2020 年 10 月現在)

⑤地点　流入防止に奮闘する五反田地区住民の姿









住民による泥土の食い止め作業









泥水の勢いは予想以上に圧力がある

家族総出で撤去作業





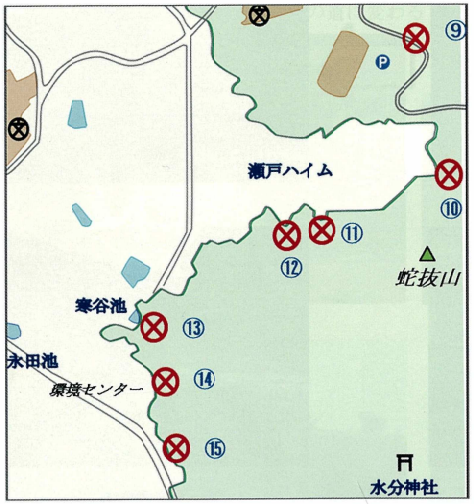
4. 瀬戸ハイムと周辺の被害

(1) 概要

瀬戸ハイムは、東部に揚倉山、南東部に蛇抜山があり、蛇抜山尾根の船越側には水分神社があるなど、昔から水の被害が発生していた地域である。今は人が入ることもなく荒れ放題の山域だが、治山は大切だ。

団地全体は西に向かって開けた形で、一部が盛り土の地域である。団地内の八幡川は暗渠となり、雨水の水路は狭く、大雨が降れば水路からの越水が考えられる。山裾と併せて街中の水路確保は住民の命綱となるので、常に観察・清掃が必要な団地である。

(2) 被災箇所



⑨地点　揚倉山運動公園と周辺。
揚倉山の崩裏で走行中の車両が土砂に巻き込まれた









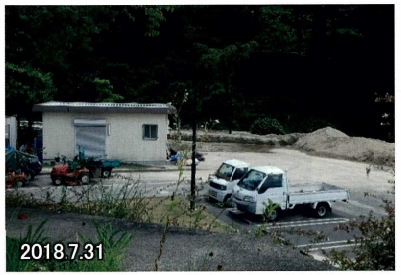
蛇抜山(標高：174m)と水分神社

瀬戸ハイム～八幡四丁目、船越峠までの町域は、蛇抜山の山裾に位置する宅地である。

登山口は船越峠にあり、登る人は少ない。登りきると岩滝山⇔甲越峠(瀬戸ハイム上部)の登山道に合流する。船越側には的場川があり、昔からはん濫を繰り返している。

薄暗い谷の奥に水分神社が創建され、今も定期的に整備されている。

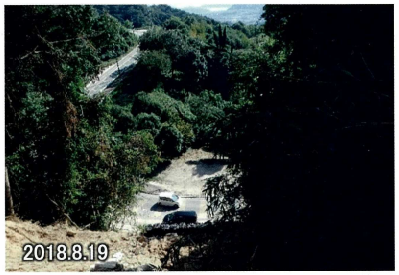
⑨地点　揚倉山の崩落土砂が揚倉山運動公園に侵入





呉娑々宇山林道から揚倉山運動公園を見下ろす





⑩地点　瀬戸ハイム四丁目　堰堤 16-2(施工：昭和 42 年)









⑪地点　住宅（瀬戸ハイム四丁目 広電バス転回場の下）



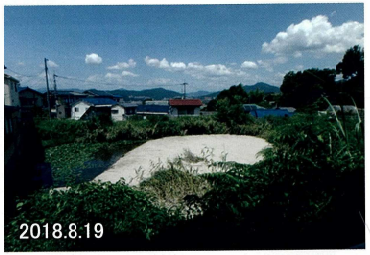


⑫地点　住宅（瀬戸ハイム三丁目 府中ニュータウン中バス停付近）



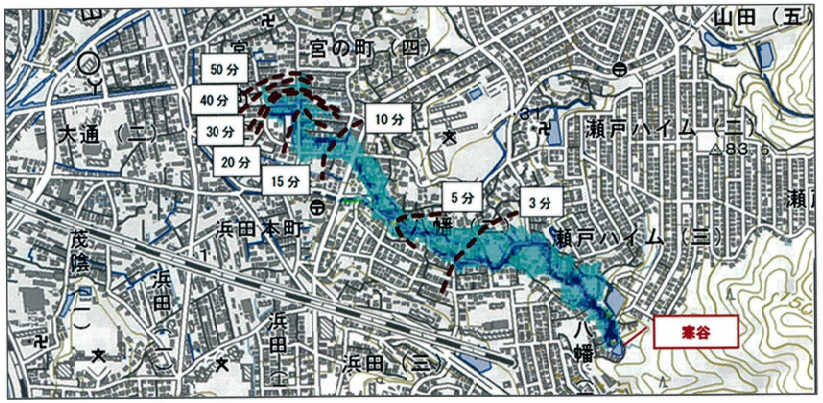


⑬地点　土砂流入時の寒谷池



平時の寒谷池



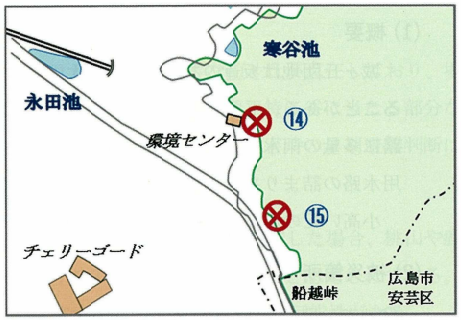


上の図は、寒谷池が満水状態の時に大地震を受け、堤防が瞬時に決壊するという最も不利な条件でシミュレーションを行っており、浸水が想定される最大の範囲を記している。
（広島県「ため池ハザードマップ」から転写）　※ 現在は貯水機能を廃止

船越峠

かつては西国街道の一部と呼ばれ船越と府中を結ぶ要所だったが、昭和 32 年頃に拡幅され自動車も通れるようになった。それまでは、峠の頂上から船越側に下る道は西に(今も柳ヶ丘の一部)逸れ、的場橋付近で合流していた。

現在の道ができた当時は、人影もまばらな急な道で的場川に沿っているので「的場峠」とか、新しくできた峠ということから「新峠」とも呼ばれていた。今日のように車の往来が激しくなったのは、平成に入ってからである。



⑭地点　府中町環境センター裏山の崩落



法面復旧後



府中町環境センター　室内まで入り込んだ土砂





⑮地点　八幡四丁目 12 番街区



法面復旧後



5. 城ヶ丘の被害

(1) 概要

城ヶ丘団地は坂道のある団地で、大雨時には雨水が側溝から溢れ、道路が水路のようになることがある。平成 24 年 7 月 3 日に発生したゲリラ豪雨(時間雨量 41 ミリ)のときは、用水路に多量の雨水が入り込んで越水し、住民が避難した。他の団地と同様に、定期的に側溝・用水路の詰まりを除去する必要がある。

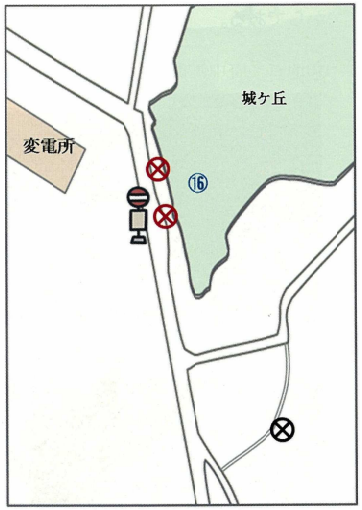
小高い丘の周辺では、法面の地盤がゆるんで、しばしば土砂災害が発生している。

(2) 被災箇所

⑯地点　城ヶ丘 17 番街区







⊗ 平成 30 年 7 月西日本豪雨での被害箇所
⊗ 平成 24 年 7 月ゲリラ豪雨での被害箇所

6. 府中町南部の被害

(1) 概要

府中町南部は、東部の山裾以外に空城山をはじめとした小さな山・丘が点在しており、場所によって谷の形状が見られるなど、起伏のある地形が特徴である。特に谷に当たる部分などの土地が低くなっている場所は、土砂災害・水害の恐れがあり、災害時の早期避難判断はもちろん、平時から斜面の観察や水路の清掃が欠かせない。

まだ今の河川の形状になってからは発生していないが、猿猴川が氾濫した場合、桃山や鹿籠、新地、青崎中などの低地部分は、深いところで３メートル以上浸かると想定されている。もしそうなった場合、２階への垂直避難では済まないところが出てくる可能性がある。

(2) 被災箇所



⑰地点　浜田三丁目 11-1
旧 青少年文化センター　浜田方面





⑱地点　旧 青少年文化センター、柳ヶ丘方面







⑲地点　鹿籠一丁目 15 番街区





⑳地点　桃山二丁目 6 番街区、とんこ山南





３部．榎川ではん濫発生（7/10）

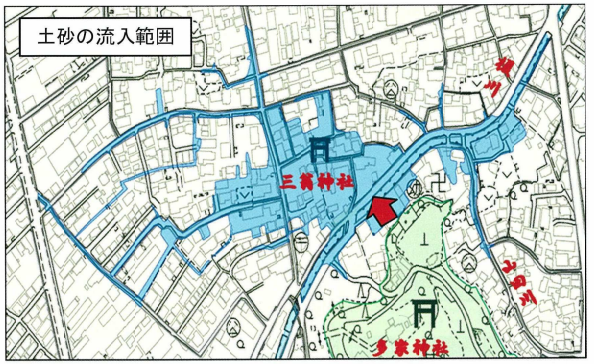
● 当時の様子

晴天の７月 10 日午前 11 時、榎川の寺山橋からはん濫が発生した。11 時 31 分、町内の防災スピーカーからは、「榎川が決壊、直ちに避難をして下さい。」と口早に繰り返し避難放送が流れる。

10 日朝に榎川の水位を確認したとき水位は 95 センチメートル、濁っているものの、７月６日の雨の影響と気に留めず帰宅したところであった。

以下、はん濫で被災した建物や土砂の流入を防ぐ住民の姿を写真でお伝えする。

● 全体の被害箇所図







1. 被災現場の状況

(1) はん濫発生（７月 10 日）

寺山橋（流木が流れを堰き止めている）





泥水は堤防を越えて街中へ





砂原会館の通り



佐藤駐車場の東路地



水面と路面が同一の龍仙寺付近、橋には流木が溜まっている





流れ込んだ泥水は路地を通り先へ先と進む









ここはすでに土のうを積んで防衛





泥水を追いかけて先端・・・





各地から集まる救出と支援活動

被害の大きかった三翁周辺では、腰まで泥水につかり逃げ遅れた人を救出している。
ボートで助かっても、腰が抜けて立ち上がれない人も発生。





多方面から続々と支援に入る



自衛隊も加わる



国土交通省の排水ポンプ車到着



東京警視庁からも支援



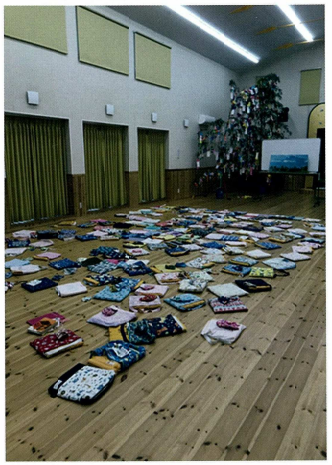
りゅうせん幼稚園の避難

7月10日から再開した幼稚園では、七夕会の準備をしていた。その最中に、父兄から「榎川はん濫」の知らせが入る。すでに裏庭には濁流が入り始め、バスは動かせず。

184名の児童は、寺の境内を抜けて裏山の89段の石段を駆け上り、府中中学校に向けて避難を開始する。

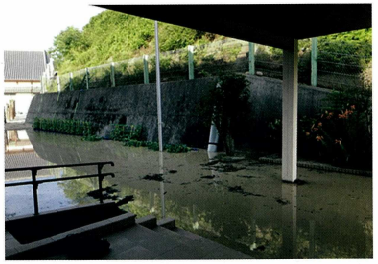
サイレンが鳴り響く中、「怖い」「嫌だ」と泣き出す児童を先生たちが抱いたり背負ったりしながら歩く。

七夕会の準備中にはん濫



土砂が駐車場の壁まで迫ってきて、
通園バスは動かず





歩いて中学校へ避難する園児たち



89段の石段を駆け上って、裏山から
中学校へ避難



重機による応急・復旧活動

寺山橋ではん濫が発生し、市街地に泥水が流入。

「市街地への流入防止」で、護岸に「トン袋(※)の土のう」を築き泥水の市街地への流入を防ぐと共に、寺山橋を迂回して下流へ流出させる水路を構築。また、平行して流木の撤去が始まる。〔下記写真を参照〕

(※)トン袋：砂が１トン入る大型の土のう袋





街中への土砂流入を防ぐために
手早い土のう積みが行われる



はん濫現場の水路確保が急務。
土のうが積み上がり、新たに下流へ向けての水路が確保できる

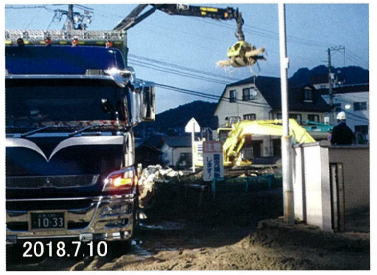


一方、山田川では水嵩が増え続け川底の浚渫が始まる



照明を点けて行われる流木の撤去





住民の手作業による土のう積み・土砂撤去作業

榎川はん濫の７月 10 日、住宅地では避難指示発令中に避難していた人が帰ってきて住民総出で土のう積みと、土砂の撤去を行う。この時、避難発令は解除されていなかった。

（避難指示解除：7/10 21:00、避難勧告の解除は 3 日後の 7/13 9:22）







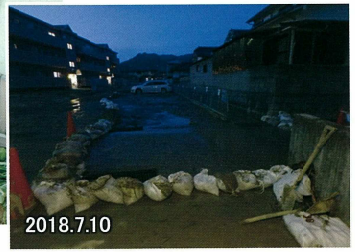








夜遅くまで土砂の撤去が行われた。
急場しのぎに水のう・土のうは有効
（左写真 水のう、下写真 土のう）



(2) はん濫２日目（７月 11 日 避難勧告発令中）

２日目は朝早くから人手が多く、重機も駆けつける







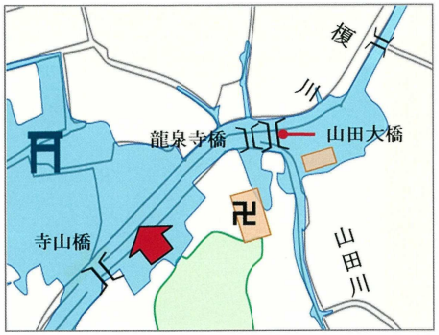
榎川は、水位・水量とも減らず、上流まで水位が増しているのが見える





榎川の支流、山田川との合流点







２日目の山田川はバックウォーター現象で道路が冠水中
山田大橋の欄干で止まった流木群





18：30 夕暮れになっても水位は減少せず、作業は明日へ





２日目も終わり、水に浸かったままの車が１台残される

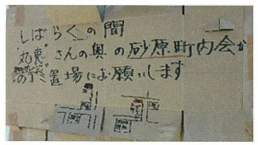


三翁神社で町内会合同の現場指揮所を設ける

榎川はん濫翌日の７月 11 日、町内会合同で三翁神社を使い現地指揮所を立ち上げて、町民の救済とボランティアの受付を開始する。

避難勧告が発令中の期間から支援があり、18 日間で 1,086 名のボランティア参加を受け付けた。







← 走り書きによる生活ゴミの案内

ボランティア受付人数

月日	曜	人数
7/11	水	20
7/12	木	10
7/13	金	80
7/14	土	260
7/15	日	240
7/16	月	238
7/17	火	40
7/18	水	15
7/19	木	20
7/20	金	15
7/21	土	55
7/22	日	49
7/23	月	6
7/24	火	4
7/25	水	7
7/26	木	7
7/27	金	6
7/28	土	14
計		1086

(3) はん濫３日目（７月 12 日 避難勧告発令中）

大型重機が到着し、土砂・流木の撤去が大きく前進する





(4) はん濫５日目（７月 14 日 避難勧告解除 桜ヶ丘、みくまり１丁目の一部は継続中）

水がひくと少しずつ被害状況が見えてくる。手前が山田大橋、向かい側が龍仙寺橋







なかなか水位が下がらず、排水ポンプを導入して強制的に川水を汲みだす







重機が入れない路地などは人手が頼り





土砂の保管場所となった府中小学校



(5) はん濫６日目（７月 15 日）

ボランティアの方の支援で着実に前進





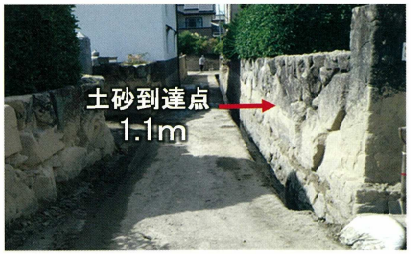




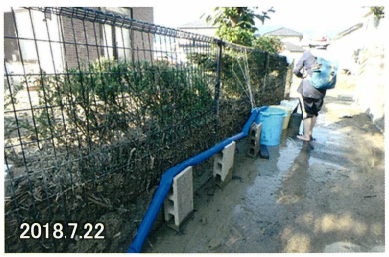
(6) はん濫７日目（７月 16 日）～

道路の土砂は撤去できたが、私有地は手付かず





連日 35 度超えの猛暑に、井戸水の冷水は生き返った気持ち。
提供ありがとうございます





街中の災害復旧

ボランティアの方は受付を済ますと、暑い中を現場へ





この日の外気温は
38 度。超暑い!!



自衛隊の災害復旧支援

この度の自衛隊支援は、用水路、側溝などに流入した土砂(泥)の撤去が目的。35 度を超す気温の中、土砂撤去していただき感謝。部隊は四国の善通寺駐屯地からの支援で、大樋の口公園横の土砂撤去作業は７時間、浚渫土砂は約４トン。







2. 榎川はん濫の爪痕（民家への被害）

被災後のＸ宅



被災前と被災後の民家

７月６日は、上昇する榎川の水位に異常を感じ、町内会が見回り声掛けしていた。その日、本町地区では何事もなく一安心したが、７月 10 日には榎川がはん濫し、大きな被害を被った。

右下写真は、被災前の民家。

被災前のＸ宅

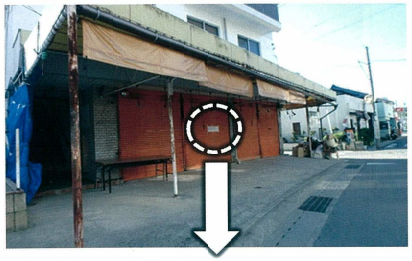


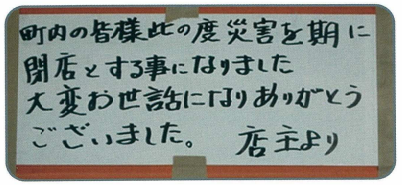












3. 榎川の水位・水量調整と復旧

(1) 重機による水路調整工事・土砂撤去

連日の排水作業と緊急の水路調整工事で水位は減少

寺山橋の上流側



寺山橋の下流側



水路を作り、流速を抑える





下流側に蛇篭（竹・鉄線で編んだカゴ）を設置し、水流を抑える





水位減少と並行して土砂の撤去が進む





(2) 榎川護岸の修復

水位・水量の減少とともに各護岸の修復が始まる

L地点、府中町役場前



A地点　みくまり病院上流の右岸



B地点　みくまり病院入口

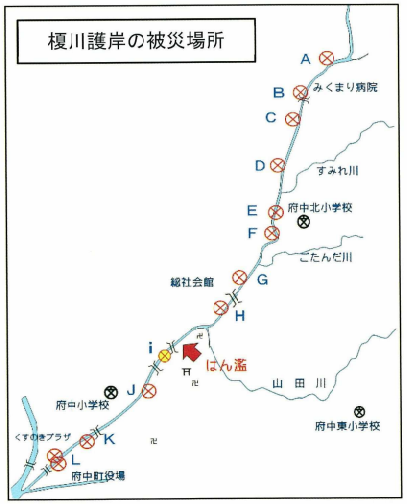


B地点　みくまり病院入口



C地点　水分峡入口民間の橋下流





C地点、水分峡入口民間の橋下流



D地点　佐伯商店前



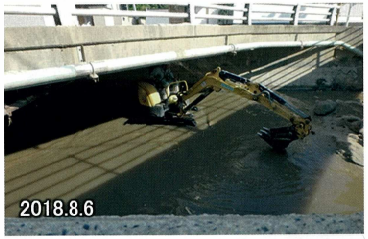
F地点



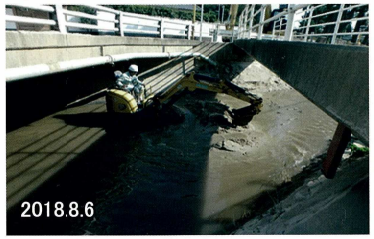
H地点　総社橋の下流



i 地点　寺山橋の下部



i 地点　寺山橋の下部



i 地点　山田川から榎川を見る



i 地点　下流から寺山橋を見る



J地点　府中小の対面



L地点　本町公園前



4部. 水分峡森林公園・北部山地の傷跡と復旧

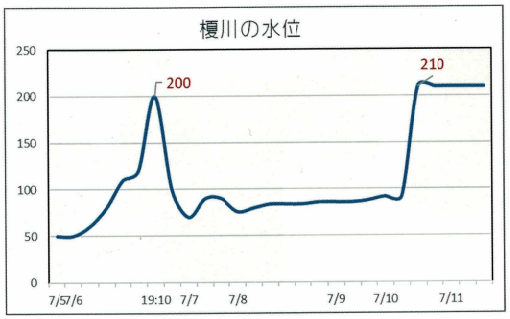
● 土石流の発生状況

榎川の水位の上昇は、7月6日19時10分頃と、7月10日11時14分頃の2度にわたり発生した(下図参照)。

水分峡の周囲は、保水性が低い「まさ土」が多い地質で、「急峻な地形」を形成している。7月5日から降り続いた雨は、7月6日19時には、時間雨量65ミリを記録した。

地質、地形、気象の悪条件が重なった中、林道造成による「盛り土」部分が一挙に崩壊し、急峻な谷間を周囲の樹木を巻き込んで加速度的に流下した。

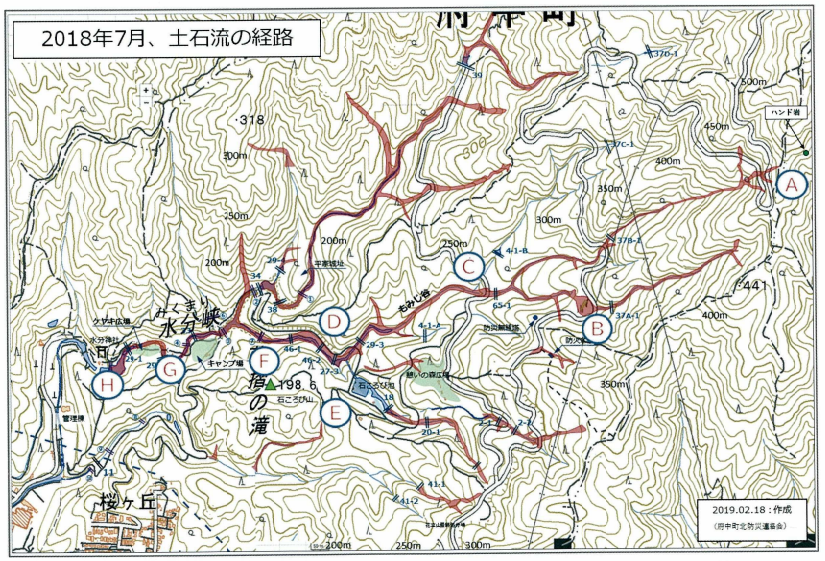
2度の水位上昇が発生







● 土石流の経路



土石流の傷跡は細部にわたり写真で記録しているが、紙面の都合で一部のみ掲載する。

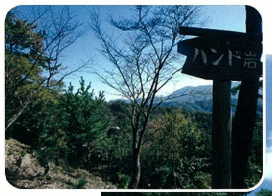
● 土石流の経路となった現場

A地点　麓から見える崩落箇所



ハンド岩の尾根から崩落場所を見下ろす







土石流の発生位置　() 内は寺山橋

東経 34 度 41 分 41 秒、北緯 132 度 53 分 92 秒
（東経 34 度 39 分 69 秒、北緯 132 度 50 分 97 秒）

標高：487m 付近（7.1m）　**標高差**：480m

最大勾配：約 32.0 度　**平均勾配**：7.2 度

通称：ハンド岩、尾根の府中町側高

距離：寺山橋から直線で、約 3.3 km地点

B地点　テレビでも度々放映された林道の崩落場所。崩落場所は深くて危険なので、一度下山して別の尾根を登り返して対岸にたどる



後日、復旧工事に入った重機と比べれば崩落場所の深さが分かる





一部、盛土部分が残っている



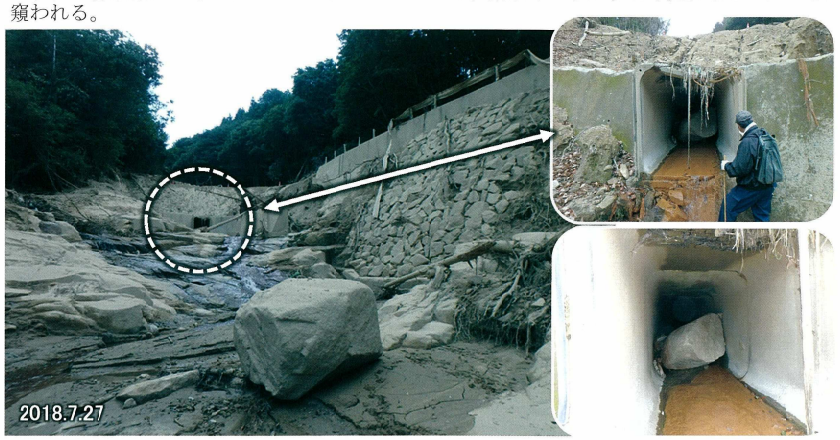




C地点　もみじ谷上流

もみじ谷は、四方に樹木が茂り、鳥の観察や紅葉を楽しめる静寂な谷であった。それが７月豪雨で、土石流が周囲の木々を巻き込み、土砂をすくって岩盤を丸見えにしてしまった。土石流の中には大きなコアストーンも混じり、堰堤をも乗り越えて、方々に傷跡を残した。

堰堤の排水路内にもコアストーンが残されており、雨水や土砂がうまく流れなかったことが窺われる。



奥に堰堤が見える



林道の上流側にある「治山堰堤 65-1」



D地点　もみじ谷入口

石ころび池に行く手前にあるもみじ谷入口。堰堤がむき出しになっている。

近くに寄りたいが、泥に足を取られてこれ以上は進めなかった。







E地点　石ころび池と堰堤 20-1

石ころび池は濁っているが、思った程の土砂は流れ込んでいない。一方、2017 年 11 月に石ころび池の上流に完成した「治山堰堤 20-1」のポケットは、多くの土砂に埋まっていた。これが、石ころび池に流れ込む土砂を食い止めたと思われる。

この堰堤は、2012 年８月豪雨のときに同じ箇所で土砂崩れが発生し、当時の土留を乗り越えて石ころび池に土砂が流入したため、建設されたものである。

参考に、それぞれの新旧を比較する。







生き生きしていた頃の石ころび池→



治山堰堤 20-1







治山堰堤 20-1 完成時の姿





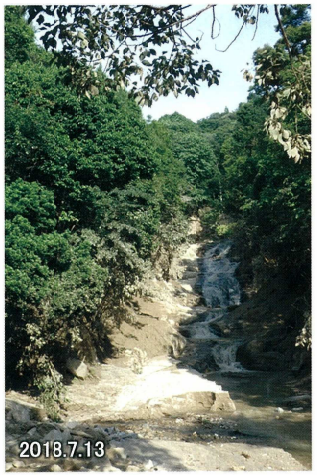
７月豪雨での土砂を浚渫（しゅんせつ）

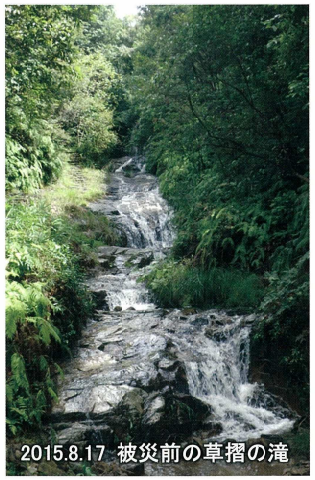




F地点　草摺の滝と砂防堰堤

府中町の自然公園「水分峡森林公園」並びに「草摺の滝」が土石流で汚損されたことは、顔に泥を塗られたほど悲しい。被災前と被災後を比較した。

















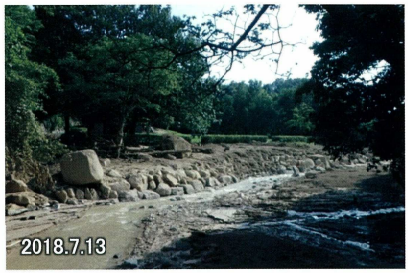


G地点　キャンプ場周辺













調査に訪れた九州大学の研究チームも現場へ

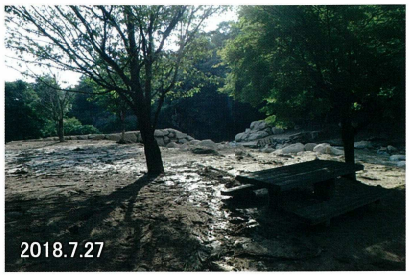




H地点　ケヤキ広場

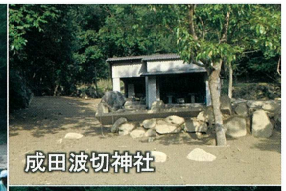


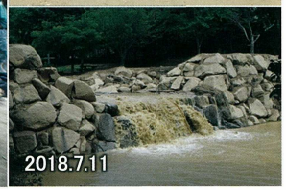
















H地点　大堰堤



砂防堰堤

昭和16年にできた石積みの砂防堰堤で、平成９年８月に改修している。

堰堤高：11.0m、堰堤長：47.9m、
堰堤幅：2.1m

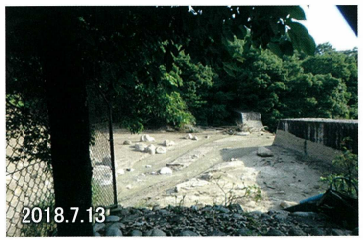
府中町では最も大きい堰堤。健全度はB。

後日、今回の除石量は、10トンダンプカー７台が１日６往復、45日間と聞く



















H地点　大堰堤（続き）











復元して水量が豊かになった大堰堤のポケット。二度と汚したくないですね・・・



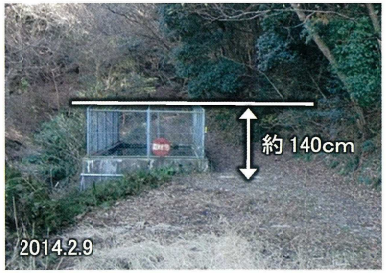
土石流の経路で見た記録

土石流の経路をたどると色々な現状に遭遇する。

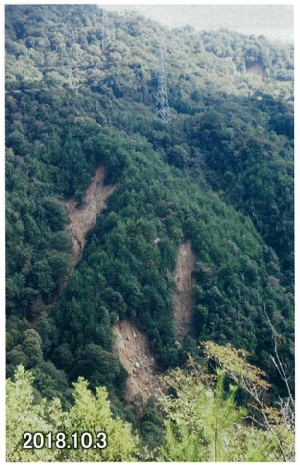
下の写真は、Ｃルートの途中、林道呉娑々宇山線の登山口にある府中消防の防火水槽。このたびの災害で、水槽の周囲が約１．４メートルの土砂で埋まり、歩行困難であった為に、より上の観察には別尾根を藪漕ぎで登った。

また、右下の写真は、高尾山（岩屋観音）の稜線から見た Ａルート付近の土砂崩れの写真。

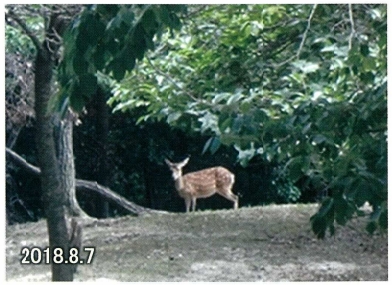








山間では異変に動物も驚いている。この日は、鹿やイノシシによく出会った。





平成30年７月豪雨で起きた土石流の特徴の１つとして、コアストーンがあげられる。



コアストーンは、花崗岩が風化する過程で内部に硬いまま残った岩塊のことで、大きいものは直径数メートルになることもある。この岩が風化して砂になったものを「まさ土」という。

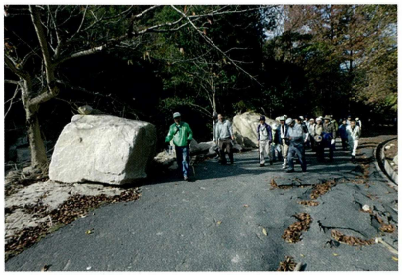
中国地方に多く分布する地質で、水はけが悪く、雨の浸食に弱い特性を持つ。

過去に府中町で発生した土砂崩れと降雨状況のデータを参照すると、時間雨量20～30ミリ以上で、山間部の斜面崩壊が起きやすくなる恐れがある。













５部. 河川の水位観察カメラの設営

● 概要

近年、インターネットを活用した水位計や河川監視カメラが登場したことで、わざわざ悪天候時に現場まで行かなくても、現場の状況をほぼリアルタイムで確認することができるようになっている。

町内の水位計・カメラ等について紹介する。



● 各機器のデータ

✧ 平成30年７月13日設置 水位観察カメラ
(国土交通省から復旧工事中の二次災害防止を目的として期間限定で貸与)

設置場所：水分峡森林公園内

タ イ プ：リアルタイムで見える固定式

監視範囲：水分神社下の橋脚付近

視認場所：府中町 安全安心室(現 危機管理課)



✧ 平成30年７月19日設置 水位観察カメラ
(国土交通省から復旧工事中の二次災害防止を目的として期間限定で貸与)

設置場所：栄会館屋上（本町三丁目11-10）

タ イ プ：リアルタイムで見えて旋回・垂直の可動タイプ

監視範囲：榎川と山田川の両方が見え、ズーム機能で総社橋～寺山橋の橋脚まで鮮明に見える

視認場所：府中町 安全安心室(現 危機管理課)



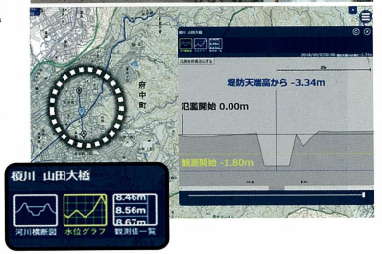
✧ 平成30年９月設置 榎川の危機管理型水位計

設置場所：山田大橋

タ イ プ：水位が堤防天端から-1.75メートルを超えると、10分刻みの観測を開始

監視範囲：山田大橋の水面

視認場所：インターネットで公開
(「川の防災情報」サイト)



✧ 平成29年８月８日設置 榎川の量水標 ※ 目視



このほか、令和３年６月現在、下記の場所に水位計と監視カメラが設置されている。
府中大川(大須観測所、茂陰第二公園河川監視カメラ)、水分峡大堰堤(監視カメラ)、榎川（えのみや陸橋河川監視カメラ）

６部. ボランティア基地の最前線となった三翁神社の復旧

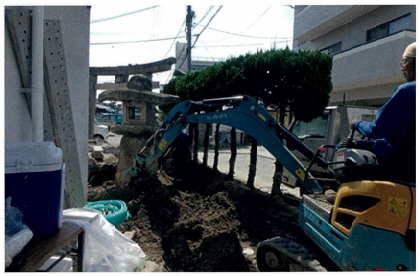
● 三翁神社

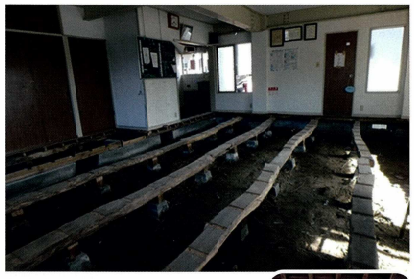
町内会合同で榎川のはん濫時の住民の被災受付、ボランティア派遣の前線基地として使用し、平常時は、１階を「辻町内会の集会所」、２階を「神社」として使用している。

三翁とは、「佐伯の翁」「岩木の翁」「所の翁」の三柱を指しますが、室町時代に角振神社が崩壊したことに伴い「角振総明神」が合祀され、現在、四柱の神様が祀られている。











７部. 被災データ

● 被害状況

人的被害

死者	０名	※ 町外で町民が１名死亡
重傷者	０名	
軽傷者	２名	

避難者数

累計　２,２５８名　（最大：平成３０年７月６日　１,３０９名）

家屋被害状況

〔住家等〕		〔企業・店舗〕	
全壊	２戸	半壊	２件
半壊	１７戸	床上浸水	４件
一部損壊	９５戸	計	６件
床上浸水	０戸		
床下浸水	２２戸		
計	１３６戸		

公共土木施設の損傷状況

〔道路〕
- 町道内堆積土砂撤去（本町地区等）　１８ヵ所
- 榎川沿い道路災害　７ヵ所

〔河川〕
- 河道閉塞（榎川、山田川、大年川、新宮川）　４ヵ所

〔橋梁〕
- 御衣尾橋（橋台損傷）　１ヵ所

〔下水道〕
- 府中町ポンプ場（土砂滞積）　１ヵ所

〔公園〕
- 水分峡森林公園・揚倉山健康運動公園　９ヵ所

〔林道〕　※ いずれも法面崩壊・路肩崩壊など
- 呉娑々宇林道　５１ヵ所
- 長尾林道　４ヵ所

〔ため池〕
- 寒谷池（八幡三丁目。現在は貯水機能廃止）　損壊・土砂流入
- 石ころび池　〃

〔砂防堰堤〕
- 砂防堰堤　７ヵ所（満砂 ６ヵ所、決壊 １ヵ所）
- 治山堰堤　１７ヵ所（満砂 １７ヵ所）

榎川越水範囲

被災地区　本町二丁目、本町三丁目、山田一丁目（約８.３ヘクタール）

７月の観測史上初の台風ゼロ・多雨・日照不足となった令和２年７月豪雨災害

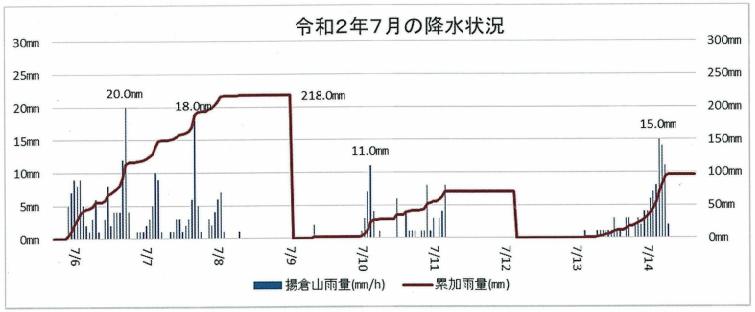
● 日時　令和２年７月６日(月)～14 日(火)

● 警報等

① 高齢者等避難開始(府中町・土砂災害)　７月６日　10：50
② 避難勧告(府中町・土砂災害)　７月６日　16：45
③ 高齢者等避難開始(府中町・土砂災害)　７月 11 日　2：43
④ 高齢者等避難開始(府中町・土砂災害)　７月 14 日　1：23

● 記録

① ７月の台風発生ゼロは 1951 年の観測開始以来初
② 月間雨量 768.5 ㎜は観測史上、最多(７月の平均雨量：258.6 ㎜ 広島気象台)
③ ７月の日照時間 84.2 時間と最短(７月の平均日照時間：179.5 時間 広島気象台)



● 損害

① 榎川の右護岸崩壊(みくまり一丁目、角入橋上流、安芸の湯近く)
② 府中大川の右護岸崩壊(東区温品四丁目 21 番街区、ドラッグストア・コスモス温品店の対岸)
③ 八幡二丁目１番街区の法面崩壊(山越広場西)
④ 桜ヶ丘 12 番街区傾斜地の土砂崩れ
⑤ 呉娑々宇山林道と、水分峡公園内のいこいの広場(藤棚)周辺の崩落等水分の大堰堤と、石ころび池などへの土砂流入など

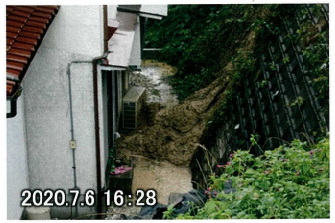
榎川右岸の崩壊



府中大川右岸の崩壊



八幡二丁目１番街区山越広場近くのがけ崩れ



桜ヶ丘 12 番街区のがけ崩れ



呉娑々宇山林道、もみじ谷上流



憩い場、ふじ棚の斜面崩壊



石ころび池の土砂流入前と後





水分峡大堰堤の土砂流入前と後





再び土砂が流入した防火水槽





第４章　未知の感染症による脅威
―新型コロナウイルス感染症―

令和時代に入ってからの大きな災害は、新型コロナウイルス感染症の猛威である。御存じのように、生活・経済・医療等が大きな打撃を受けている。他の生物による災害も、自然災害と言っていいのではないかと思う。

日本では、６世紀の天然痘から始まり、麻疹の流行が起きている。世界では 14 世紀に起きたペストの大流行で、当時の人口４億 5000 万人の 22%、１億人が死亡したとされている。（当時は治療方法が無い。19 世紀末、日本人北里柴三郎氏により原因菌が突き止められ、感染防止策がなされ減少）又、アフリカ・中南米の風土病・黄熱病も流行したが、当時、日本は島国（鎖国）時代であり感染には至らなかった。

開国後の幕末から明治にかけて流行したのが、コレラ（コロリ・コロナとも呼ばれた）である。コレラは、インドのガンジス川流域の風土病で、1822 年中国地方から九州地方にかけて、又、1825 年西日本で流行し、府中町もこの時に被害を受けている。1825 年には江戸（東京）でも流行し、10 万～30 万の人が亡くなっている。1862 年には再び江戸で流行、１次より多くの方が亡くなっている。1879 年・1886 年に再び流行して各年に 10 万人以上の方が亡くなっている。

スペイン風邪（1918 年～1920 年）では、世界人口５億人のうち、5000 万人の人が亡くなっている。このとき、「パンデミック」という言葉が使われた。近年は、現在流行している新型コロナウイルス（ＳＡＲＳ－ＣｏＶ－２）の源である、ＳＡＲＳ（重症急性呼吸器症候群 2002～2003 年　916 名死亡）、ＭＥＲＳ（中東呼吸器症候群 2012 年～900 名死亡）の流行が報告されている。

新型コロナウイルスも中国が発生とされているが、ウイルスも生き延びるために、形を変え人間に取り付いていると思われる。絶滅することは考えられないので、共生の道を歩むしかなさそうである。

令和３年８月現在、新型コロナウイルス感染症流行の終息の兆しが見えない。災害を自然現象からだけ捉えてきたが、ウイルス等をはじめ、人類に大きな脅威を与えるものは、災害と呼んで過言でにない。人類がこれまで経験したことのない種類の災害は、今後も多く発生するかもしれない。これからの時代は、そうした未知の脅威に対する想像力を働かせつつ、過去の経験と知恵を生かして、自身にできる備えを日常的に行っていかなければならないのではないか。

第５章　これからの災害対応に求められること

災害は、大きく分けると、「事前型災害」と、「事後型災害」の２つに分けられる。「事前型災害」とは、予め災害の発生時期や規模をある程度具体的に知ることができるもので、大雨や台風などの風水害がこれに当たる。「事前型災害」の対応では、事前に災害の進行状況や詳細なスケジュールを前もって知ることができるため、状況判断を間違わなければ被害を避けることができる。よって、情報収集が特に重要となる。

一方、「事後型災害」は、火災や地震といった、発生時期がわからないものを指す。そして、これらの災害は、発生後すぐに事後対応に当たらなければならない点が、事前型災害と大きく異なる。「事後型災害」の対応では、平時からの予防・準備が重要である。発生してからできることは限られているが、日頃の準備次第で致命的な被害を避けることができる一方、準備不足の場合は、そのまま打つ手なく被害の拡大を招き、最悪命を落としかねない。

どちらの災害にも、言えることは、まず自分から動く必要があるということだ。必要な情報は自分から入手しなければ、逃げるタイミングを逸してしまうかもしれない。災害対応は、ギャンブルではない。平時に必要な対策・準備をしておけば、ほとんどの難を避けることができる。大きな災害が迫るたびに、一か八かの賭けをしてなし崩しに自宅待機するのではなく、ぜひみなさん一人ひとりが、自分はどう備え、どう逃げるかを考え、実践できるようになっていただきたい。もちろん、わからないときは、頼れる人に相談するのも一つの答えである。わからないことや困りごとは一人で抱えずに、家族や友人、町内会などに相談してください。

近年の気象状況

過去の災害時における気象天気図を掲載させていただいたが、近年は天気図だけでは判断できない事象が起きている。令和２年は、台風の上陸はないが、梅雨前線、秋雨前線、高気圧の張り出し具合で、広範囲・局地的に豪雨（線状降水帯）・強風・高温・豪雪が発生している。これらは、温暖化の影響といわれている。

過去は、台風が近づいてきたときには天気図を確認していたが、これからは、梅雨前線、秋雨前線、高気圧の動向にも注意を払う必要がある。

１日に１回は、天気予報を見られることをお勧めする。

避難行動

「避難行動」とは、単に避難所へ行くことだけを指すのではなく、危険の察知や逃げる場所の検討、判断など、危険を回避するのに必要な行動全てを指す。

もし、安全な場所にいるのなら避難所へ向かう必要はない。災害が迫っているときは、誰もが自ら率先して自分に合った避難行動をとる必要がある。わからないときは人に相談するのも、一つの手段である。

1. 情報収集

まず、自身が避難の必要があるのか、どれくらいの備えが必要なのかを見極めるために、災害に関する情報を集めなくてはならない。

(1) ハザードマップ

地形の特徴や避難経路を確認する。ハザードマップは、土砂災害・洪水・高潮・津波など、災害の種類ごとに作成されている。崩れやすい場所や浸水しやすい場所をマップで見て押さえておくとよい。自宅だけでなく、普段使っている道や、よく行く場所なども見ておくことがポイント。

(2) 最新の天気予報

大雨などの予報や気象庁の会見などがあったら、よりこまめに最新情報を確認する。最近の天気は短時間で急に変わることもあるので、過信は禁物である。河川が近くにある人は、宇品の潮見表も重要。府中町は海が近く、潮位変動の影響を受けるため、満潮の時刻付近にはそこまで激しい雨でなくとも越水の危険に見舞われることがある。

(3) 自治体からの避難情報（警戒レベル）

気象注意報・警報などは気象庁が発表するが、それに対しての避難の呼びかけは、自治体ごとに判断して発信することになっている。避難情報は、メールやライン、ホームページなどで受信することができるので、登録しておきたい（裏表紙に登録案内あり）。近年、頻繁に基準の見直しが行われているので、最新情報に気を配りたい。

【令和３年８月現在の警戒レベル】



※１ 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル５は必ず発令される情報ではありません。
※２ 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
※３ 警戒レベル３は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

次の表で、天気予報で使われる雨・風の表現と、実際の危険度についてまとめている。天気予報を見聞きしたとき、どんな状況になるのか想像がつくようになっていただきたい。

【雨の強さと表現】

雨の強さ	時間雨量（ミリ）	人への影響	走行中の車	道路等の状態
やや強い雨	10㎜ 以上 20㎜ 未満	ザーザーと降り、地面からの跳ね返りで足元が濡れる。		地面一面に水たまりができる。 この程度の雨でも、数時間降り続いているときは土砂災害や道路冠水の恐れあり。
強い雨	20㎜ 以上 30㎜ 未満	どしゃ降りで、傘をさしていても濡れる。	ワイパーを早くしても見づらい。	
激しい雨	30㎜ 以上 50㎜ 未満	バケツをひっくり返したように降る。	高速走行時、ブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）。 道路冠水の恐れがあり、特に小さい河川の近くやアンダーパスなどの走行は危険。	道路が川のようになる。 地面の段差や溝などに気付きにくくなる。 マンホールの蓋が外れることがある。 土砂災害が発生し始める。
非常に激しい雨	50㎜ 以上 80㎜ 未満	滝のようにゴーゴーと降る。 傘は全く役に立たなくなる。	道路が冠水するなどして、車体まで浸水すると走行できなくなる（高速走行時は水の巻き上げ量が多くなり、車体が浸かっていなくてもエンジン停止の恐れ）。	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 マンホールから水が噴き出すことがある。 重大な災害がいつ起きてもおかしくない状態。
猛烈な雨	80㎜ 以上	息苦しくなるような圧迫感がある。 恐怖を感じる。		

【風の強さと表現】

風の強さ	平均風速（秒速）	人への影響	走行中の車	その他
やや強い風	10m以上 15m未満	傘がさせない。	横風に流される感覚。	電線や樋（とい）が揺れる。
強い風	15m以上 20m未満	風に向かって歩けない。転倒する人が出る。	大きく横風に流される感覚。	看板・トタン板が外れ始める。 瓦がはがれるものがある。
非常に強い風	20m以上 25m未満	掴まる物がないと立てない。 飛来物で負傷する恐れ。	通常速度での運転が困難。	看板・瓦が飛散し始める。 細い樹木の幹が折れたり、根元から倒れ始める。 道路標識が傾く。
	25m以上 30m未満			
猛烈な風	30m以上 35m未満	屋外での行動は極めて危険。	走行中のトラックが横転。	養生の不十分な仮設足場が崩落する。 多くの樹木や、電柱・街灯が倒れる。 ブロック壁が倒壊する恐れ。
	35m以上			

2. 非常用持ち出し品・備蓄品の準備

災害は、今やいつ起きてもおかしくない状況である。災害での被害を最小限にするためには、状況に合った物をあらかじめ準備しておかなければならない。大規模災害は、基本的に地域全体が被災して、特定の生活に必要不可欠な物資が不足しがちである。ローリングストック（災害時の備蓄を日常的に使い、使った分を買い足す備蓄方法）を活用して、うまく日常生活に防災の仕組みを取り入れたい。

備えのポイントは、普段から持ち歩くもの、避難するときに持ち出すもの、被災後必要になるものに分けて考えることである。

眼鏡や普段から服月する薬、携帯電話、身分証や現金などは、普段から常に携帯する方がよい。特に、眼鏡や薬など、自分専用に調整された使う人を限定した物は、そう簡単に救援物資で手に入らない。不足がないように自分で備えておかなければならない。

非常時の避難に必要な物は、あまり重すぎて運ぶのが大変だと、避難を渋る原因にもなりかねず、足元や視野の悪い状況下でかえって危険につながることもある。まずは、避難先で一晩過ごせる程度のものを一揃いコンパクトに作ってみてほしい。避難先が公共施設なら他の人との集団生活が前提になる。水やアルファ米などの食料はあるかもしれないが、嗜好品や時間をつぶせるもの、カイロやうちわなど、快適に過ごすための工夫が必要になる。

災害が過ぎ去った後も、日常生活に戻るまでを凌ぐ備えが必要である。避難後、自宅が無事なら家で生活を続ける、「在宅避難」が基本になる。そのためには、備蓄品は少々自宅が被災しても、被害を受けない場所に置いておくのがポイントだ。水や食料品は最低３日（できれば１週間）、トイレットペーパーやラップなどの日用品は、１か月分は常に買い置きしておく。堅牢な住まいで直接の被災は想定されない人でも、電気系統や下水道のトラブルで、トイレやエレベーターが使えなくなったりすることは考えられる。おむつや生理用品はもちろん、健常者の人も災害用トイレ（消臭剤と凝固剤、便袋がセットになったもの。）を最低１週間程度、できれば１か月分は買い置きしておくことを推奨する。

災害でせっかく命が助かっても、その後の生活のストレスや疲労等が原因で亡くなる人が多い。事前に備えをしておけば、快適に過ごせて、より早く元気に復旧活動に移行できる。防災では、日常と被災時の差をいかに小さくできるかがカギになる。

3. 避難開始のタイミング

人によって異なるので、実は非常に難しい問題である。一つの避難開始の基準として、「警戒レベル」がある。警戒レベル３で避難に時間がかかる高齢者等の避難開始、警戒レベル４で、危険区域にいる人（被災する恐れのある人）は全員避難となっている。警戒レベル３以上が出されると同時に、自治体は公共施設の避難所を開設することとしている。

しかし、警戒レベルは、これから気象状況が悪化していくという予想がない限り、出すことができない。つまり、急激な気象の変化には、自治体の警戒レベルの発表を待っていては、逃げ遅れる可能性がある。

前述の「1. 情報収集」で示した雨と風の強さから、特に健康に問題のない成人を例に、避難可能な状況かどうか考えてみる。

まず、避難時にはある程度の荷物があるはずなので、傘を差しながらあまり濡れずに避難したいなら、時間雨量 10 ミリくらいまでの間に避難を完了しておかなければならない。雨合羽を着るなら、手が空くのでもう少し雨が強くても問題ない。避難するのが夜間なら、懐中電灯も必要になる。道路が冠水しているなら、足元に危険がないか傘などの長物で地面を探りながら進まねば大けがをする可能性があるし、長靴に水が入ってしまう水位なら歩けなくなってしまう。そうなると足元はスニーカーなどになるが、もし河川が氾濫していた場合、石などの漂流物が足に当たり、怪我をしてしまう。車で避難しようにも、突然雨脚が強くなって走行中に冠水する恐れがあるし、避難先に亘を停められないかもしれない…。

比較的すぐに避難できるはずの成人でも、避難をためらうと上述のような状況に陥ってしまいがちである。災害時においては、時間が経てば経つほど安全な避難の選択肢が減っていく。可能なら、雨脚が強くなりそうなタイミングでさっさと親類や知人宅に避難させてもらうのが一番良い。近隣に避難所となる公共施設がある人は、すぐに出られる準備をして開設を待つのも手だろう。

平成 30 年７月豪雨では、前日までの長雨で地盤が緩み、さらに７月６日から７日までの１日で、200 ミリ以上降ったために、土砂崩れが各地で起こり、榎川や府中大川は越水寸前となり、排水が追い付かず町内では道路冠水が多発した。「大体これくらいの雨が降るとこういう状態になる」というイメージを持っておくことは、非常に大切である。

私たちの避難場所は

災害の種類によって、避難先は変わってくる。公共施設の避難所も、いつどんな災害でも逃げていい場所とは限らない。令和２年は、感染症の問題もあり、分散避難の必要性も叫ばれており、親戚・知人宅や宿泊施設も選択肢に加わった。自分の地区のハザードマップを確認して、地震のとき、高潮のとき、洪水のとき、暴風のとき、自分は逃げる必要があるのか、逃げる場合はどこへ逃げることができるのか、いつなら安全に避難できるのか。災害が起きていないときに、じっくり確認していただきたい。

日常的な災害予防の実践

「天災は忘れた頃にやってくる」というが、実際には、我々は災害が起こる可能性が近年特に高まっていることを知っている。ただ、具体的な発生日時がわからないだけだ。いつ来るかわからないことに対して、人間はずっと緊張し続けることができないので、つい準備を怠り、災害を目前にして焦る。だから、我々は、いつ来るかわからない災害に対し、ピンポイントで備えようとするのではなく、日常的な営みに防災を溶け込ませて、防災活動を非日常でなく、日常の中で気を張らずに行えるように工夫しなければならない。

例えば、散歩や通勤、通学のとき、町内を見てみてほしい。川岸で何か異常があったり、山の斜面から日頃とは違う臭いがしたり、倒木など災害を予見するような異常があれば、行政に連絡を入れるのも、立派な防災活動の一つだ。

買い物をするときも、ティッシュやトイレットペーパーなどの日用品を余裕を持って買い足したり、食べなれた缶詰やレトルトを多めに買うのでもいい。防災用の非常食も市販されているが、一般家庭で非常食を備蓄するなら、特に年単位で保存できる専用の物でなくてもいい。災害時のストレスを和らげるなら、むしろ普段から気に入って食べている物のほうがいいくらいである。

キャンプが趣味の人は、一度道具を見直してみると、避難生活を快適にしてくれるアイテムが見つかるかもしれない。

防災活動が普段の行動の中で意識せずにできるようになれば、いきなり災害に遭遇しても慌てることなく対処できる。

日頃からのコミュニティ活動

災害では、よく「自助・共助・公助」と言われる。繰り返しになるが、大規模災害は地域全体が被災する。だからこそ、普段から「自助」でまず備えをしておくことが大切になる。その一方で、大規模災害になれば、個人でできることには限りがある。そうしたとき、「公助」は、大規模な災害現場の復旧や避難所の運営など、より大きな地域の問題にかかりきりのはずで、一個人の困りごとに対応する余裕はあまり期待できないし、個人の財産に係る対応は特に難しい。

そうしたとき、頼りになるのが「共助」である。府中町では、ほとんどの地域で町内会が活動している。平成 30 年７月豪雨でのボランティア活動をはじめ、林道や河川の清掃活動、防火活動など、個人や行政ではできないことも、組織で会員同士が助け合い、対応している。町内会ごとの祭りなどで顔見知りになっていれば、災害時の助け合いもスムーズである。近年は、災害時に高齢者などに対し避難の呼びかけ活動を始めた地域もある。

町内会活動は、自分たちの住む町をより過ごしやすくするための活動である。ぜひ多くの方に参加していただければ幸いである。加入していてもなかなか活動に参加できない方も、祭りなど地域イベントへの参加などから、少しずつ活動について知っていただきたい。

町内会の加入手続きは、各町内会の会長が受付している。所属町内会がわからない場合、府中町役場の自治振興課で確認できるので、ぜひお問い合わせください。

災害から一年、2019. 5. 19 桜ヶ丘町内会では、住民有志 36 名の参加による角入林道の土砂撤去・水路の確保と清掃を行った。





平成 30 年７月豪雨で被災した辻町内会では、その年の 10 月 21 日、秋祭りが開催されシャギリ（祭り囃子）が奉納された。
府中町では戦国時代から多家神社へ奉納囃子として例大祭（秋祭り）にシャギリが行われている。





おわりに

今回府中町の災害の歴史について記載した。皆様方には、府中町はどの様な地形の上に成り立ち、どのような場所に皆様が住んでいるのか、府中町がどの様な災害に遭い、皆様が住んでいる地域に過去どの様な事が起こったのか認識していただきたい。それを認識したうえで、山が近くにある地域は、水の排水はどうなっているのか、自分の家の周りは障害物（流されるかも）があるか、水路は清掃されているか等確認してください。平地では、排水がどこに流れていくのか、水路は清掃されているか、平地でも自分の住んでいる場所は他家より上か下か等確認してください。

令和３年７月、熱海市で発生した土砂災害は、渓谷の谷間（渓流）で起きたものである。府中町に当てはめると、城ヶ丘・江本寺・石井城・砂原と、桜ヶ丘・清水ヶ丘・御衣尾・五反田・山田大崎の合間を流れる榎川のような地形である。府中大川（旧温品川）、八幡川―山田川の周辺も、同様の地形と言えるだろう。熱海市の被災地区では、過去にも大災害が起きている。地形というものは、変えるのが難しく、現代の技術で上手く造成できたとしても、安定には数百年の時間を要する。地形による災害は、同じ場所で繰り返し発生すると考えるべきである。読者の皆様には、この災害史を一読し、皆様の近辺で過去にどのような災害が起こったか知っていただければ幸いである。

このあとがきを書いている頃も、府中町では７月、８月と続けて大雨が降っている。幸い、強い雨が降り続けることがなかったため、住宅地への大きな被害はなかったものの、いつ平成30 年７月西日本豪雨災害のような甚大な被害につながったとしても不思議ではない降り方であった。この雨で、水分峡森林公園などの山間部ではまたも土砂崩れが多数発生した。こうした山間部では、平成 30 年７月豪雨災害の復旧も完全に終わりきらないうちに、毎年のように法面崩壊や堰堤への土砂流入が続いており、直してもきりがない状態である。

地域名士・公共事業により対策が行われてきたが、すでに 20 年～百数十年前の対策であり、現在に当てはまるとは思えない箇所もあると思われる。これが最近よく使われる「想像外」「50年に一度の」「新記録」等の言葉である。府中町では１時間雨量 50 ミリ・総雨量 150 ミリが降ると、その後５時間は災害が起こる可能性が有るとみている。では、私達に出来ることは、水路の掃除、府中大川・榎川・八幡川への支流からの合流地点の観察（川に近づかず、安全な場所から、またはインターネットの水位情報を見ること。異常があれば関係団体に連絡）、山の整備（みくまり等）が考えられる。府中町では町内会ごとに定期的な水路清掃を行っている。

避難は、近年の雨の降り方の傾向が、短時間大雨になっているので、現在の避難情報発令体制では間に合わないことが想定される。線状降雨帯に入っていると思われる場合は、避難情報が無くても早急な避難をお願いしたい。避難する場所は、行政指定の避難場所（現在は新型コロナ対策で人数制限、行政が避難情報を出す前に設置を希望された方が良い場合もある。真夜中に避難情報を出されてもその方が危険）、在宅避難（堅牢な住居の浸水想定よりも上階）、縁故避難（知人・親族等、予めの人間関係が必要）がある。命を守るために早急な決断をお願いしたい。

今回府中町の地形・歴史・文化等の資料を拝読し利用させていただきました。また、災害現場の写真撮影や取材など、資料の収集・掲載にご理解・ご協力をいただいた関係者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

気 象 記 録

R3. 9. 2 現在

A）広島県の雨量記録(広島気象台データ)

No.	1時間降水量		10分間降水量		24時間降水量		月間降水量	
	降水量/時	月 日	降水量/時	月 日	降水量/日	月 日	降水量/月	月 日
1	79.2mm	T15.09.11 (1926)	26.0mm	S62.08.13	357.5mm	T15.09.11	768.5mm	R02.07
2	73.0mm	M38.08.07 (1905)	25.0mm	S23.09.12	312.5mm	H30.07.06	696.0mm	R03.08
3	70.4mm	S25.09.07 (1950)	24.0mm	H18.08.02	278.3mm	S40.06.19	665.6mm	T12.06
4	66.7mm	S15.09.05 (1940)	23.2mm	S15.06.30	237.5mm	R03.08.14	658.5mm	S60.06
5	62.5mm	H28.09.17 (2016)	22.5mm	S50.07.17	229.5mm	S58.09.28	645.5mm	H05.07
6	60.0mm	H24.07.03 (2012)	22.0mm	H10.07.22	228.0mm	R03.07.08	610.7mm	M22.07
7	59.5mm	S62.08.13 (1987)	21.5mm	S62.07.14	223.0mm	S57.07.16	601.4mm	S18.07
8	59.0mm	S08.06.29 (1933)	21.0mm	S13.10.02	210.6mm	S05.08.13	579.0mm	S28.06
9	59.0mm	M42.09.09 (1909)	20.5mm	H28.09.17	208.0mm	R02.07.06	563.7mm	M18.06
10	57.5mm	S23.09.12 (1948)	20.5mm	S56.06.27	199.4mm	M45.07.23	549.9mm	S06.07

B）広島県の気温記録(広島気象台データ)

No.	最高	月 日	最低	月 日
1	38.7°	H06.07.17 (1994)	-8 6°	T06.12.28 (1917)
2	38.6°	H16.07.29 (2004)	-8 5°	S38.01.16 (1963)
3	38.3°	H16.07.30 (2004)	-8 4°	M16.12.31 (1883)
4	38.3°	H06.07.22 (1994)	-8 3°	T06.01.05 (1917)
5	38.1°	T13.08.05 (1924)	-8 3°	M19.02.03 (1886)
6	38.0°	R03.08.06 (2021)	-8 0°	T12.02.28 (1923)
7	38.0°	H06.07.16 (1994)	-7 8°	M26.01.06 (1893)
8	37.9°	H13.08.05 (2001)	-7 5°	S56.02.27 (1981)
9	37.9°	H06.07.24 (1994)	-7 5°	S52.02.17 (1977)
10	37.8°	T03.08.12 (1914)	-7 4°	S56.02.26 (1981)

C）月別平均降水量と気温

	降水量	平均気温
1月	46.2mm	5.4°
2月	64.0mm	6.2°
3月	118.3mm	9.5°
4月	141.0mm	14.8°
5月	169.8mm	19.6°
6月	226.5mm	23.2°
7月	279.8mm	27.2°
8月	131.4mm	28.5°
9月	162.7mm	24.7°
10月	109.2mm	18.8°
11月	69.3mm	12.9°
12月	54.0mm	7.5°
計	1572.2mm	16.5°

D）揚倉山雨量観測所の雨量記録

No.	降水量/時	月 日		備 考	
1	69.0mm	H28.09.17 22:30	(2016)	台風16号襲来、府中町では各地で冠水	※
2	65.0mm	H30.07.06 19:00	(2018)	西日本豪雨（7/10.榎川はん濫）、府中大川は過去最高水位	※
3	52.0mm	H28.06.21 01:40	(2016)	広島市東区に避難勧告発令、府中町に大雨・洪水警報発令	※
4	49.0mm	H24.07.03 06:20	(2012)	九州北部豪雨、石井城2丁目の民家に土砂流入	
5	49.0mm	H22.07.14 09:00	(2010)	庄原豪雨、県内の河川にはん濫注意報発令	
6	48.0mm	H21.07.24 22:10	(2009)	西日本に梅雨前線、各地に大雨警報・土砂災害警報発令	
7	45.0mm	H29.06.30 02:20	(2017)	榎川役場前右岸の洗堀、府中町各地で浸水	
8	44.0mm	H26.07.07 11:20	(2014)	台風8号接近、梅雨前線と重なり各地に被害発生	
9	43.0mm	R03.07.08 04:10	(2021)	梅雨明け大雨、線状降雨帯発生	
10	40.0mm	H26.09.04 06:20	(2014)	午前中、局地豪雨（ゲリラ）発生	

E）府中大川の水位記録(大須観測所)

No.	水位	月 日		
1	2.75 m	H30.07.06 19:10	(2018)	※
2	2.38 m	H22.07.14 09:00	(2010)	
3	2.19 m	H29.06.30 02:00	(2017)	
4	2.03 m	H28.09.17 22:10	(2016)	※
5	2.01 m	R03.07.08 06:20	(2021)	
6	1.98 m	H22.07.13 08:00	(2010)	
7	1.97 m	H17.09.06 22:40	(2005)	
8	1.93 m	H22.06.26 19:00	(2010)	
9	1.90 m	H28.08.16 19:20	(2016)	
10	1.90 m	H16.09.07 15:00	(2004)	

堤防の高さ：左岸=3.57m／右岸=3.61m

※印は、本誌に災害の記録あり

F）榎川の水位記録(量水標&危機管理型水位計)

No.	水位	月 日		
1	はん濫	H30.07.10 11:31	(2C18)	▼
2	2.00 m	H30.07.06 19:01	(2C18)	▼
3	1.28 m	R03.07.15 19:00	(2C21)	●
4	1.17 m	R03.07.12 13:20	(2C21)	●
5	0.90 m	R03.07.12 13:20	(2C21)	●

堤防の高さ：2.9m

▼印は、量水標の視認記録(2017.8設置)

●印は、危機管理型水位計の記録(2018.8設置)



大須水位観測所

計測開始・・ 2003.3.21 (H15)



榎川量水標&河川監視カメラ

量水標 2017.8.18 (H29)

監視カメラ 2021.6.15 (R03)

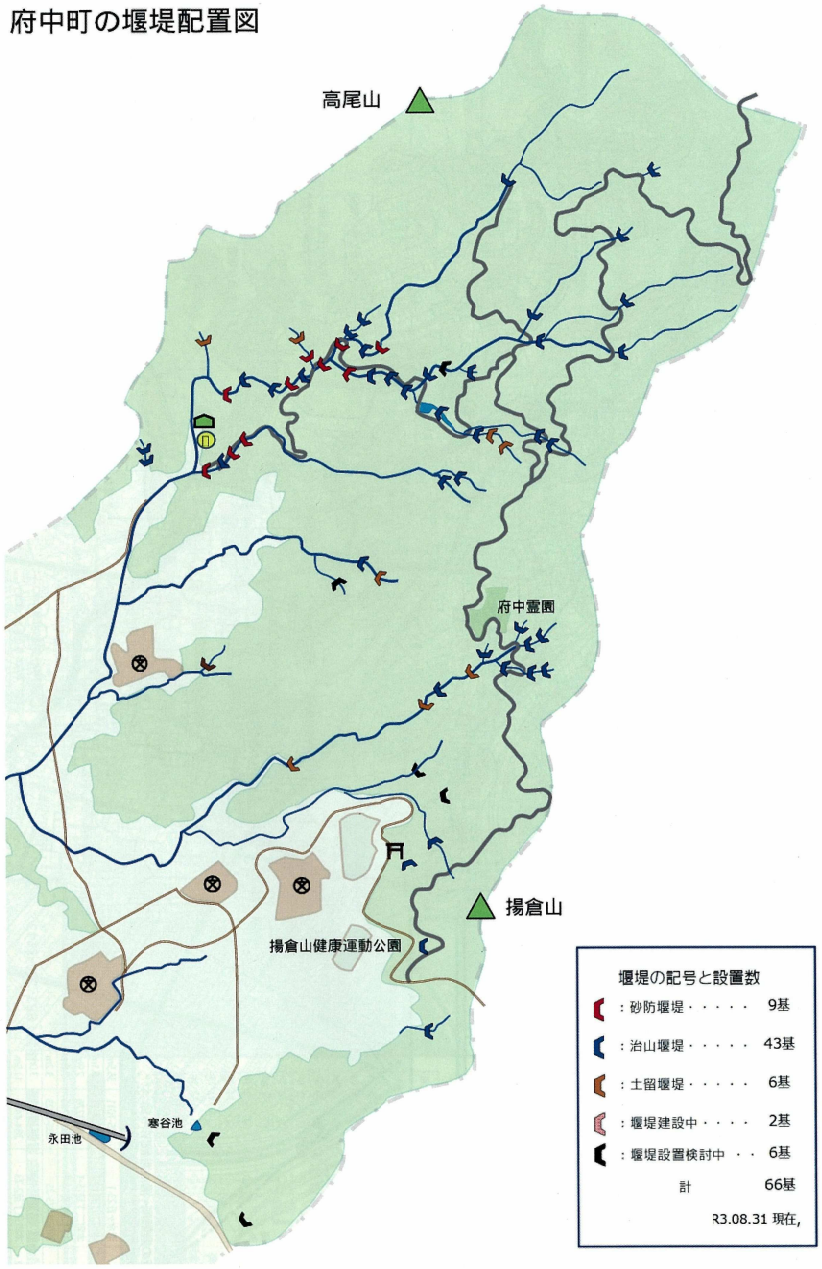


揚倉山雨量観測所

計測開始・・2004.4.01 (H16)

その他に危機管理型水位計等あり

府中町の堰堤配置図



平成30年4月

府中町 府中北小学校区 土砂災害ハザードマップ

掲載内容
【地図面】 土砂災害ハザードマップ（府中北小学校区）
【情報面】 このマップの活用方法／土砂災害と前兆現象
災害に備えて／避難情報について

お問い合わせ
府中町 危機管理課
〒735-8686 広島県安芸郡府中町大通３丁目５番１号
TEL:082-286-3243 FAX:082-286-3126
e-mail: kikikanri@town.fuchu.hiroshima.jp

わが家の防災メモ

わが家の避難先（親類宅・避難所など）	家族がはなればなれになった時の集合場所

家族の名前	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号

その他防災メモ（必要と思われる事項）

町内会別・避難時に注意すべき危険箇所

町内会	町内に共通する危険性
石井城上下	道路が狭く側溝や私有地との段差に注意
	ブロック塀に注意
清水ヶ丘	ブロック塀に注意
城ケ丘	道路が狭い
桜ヶ丘	土砂災害時に孤立のおそれ
	狭くて急な階段や坂道
	避難経路が冠水するおそれ
江本寺	道が狭い
御衣尾	土砂災害時に孤立のおそれ
	狭くて急な階段や坂道
	避難経路の上部にある水路に注意
五反田	道が狭く急な坂道
	水路への転落に注意

府中北小学校区付近の避難所・福祉避難所一覧

避難所	所在地	電話番号	海抜
府中北小学校	清水ヶ丘23-1	285-1011	35.5m
府中小学校	本町二丁目15-2	281-9411	3.1m
府中公民館	本町二丁目15-1	286-3276	2.9m
府中町歴史民俗資料館	本町二丁目14-1	286-3260	7.0m
福寿館 ※優先的に開設	浜田本町5-25	285-7223	3.2m
鶴江地区センター	鶴江二丁目14-26	282-3521	3.0m
総社会館 ※優先的に開設	本町三丁目2-23	284-4441	11.5m
福祉避難所	**所在地**	**電話番号**	**海抜**
府中町ふれあい福祉センター	浜田本町5-25	285-7278	3.1m
府中町福祉の郷 なないろ作業所	浜田三丁目9-1	236-3417	13.4m
福寿館（２階娯楽室）	浜田本町5-25	285-7223	3.2m
みどり会 みどり園	浜田一丁目6-7	281-6700	3.3m
かきつばた福祉会 福寿苑	茂陰二丁目6-2	508-2110	3.5m

福祉避難所とは、避難所生活が困難な要配慮者（高齢者や障害のある人など特別な配慮を必要とする人）を受け入れる二次的な避難施設であり、状況に応じて開設するものです。

凡例：一時集合場所／避難所／危険箇所／避難経路／道幅6m以上の道路／鉄道／町内会／町域

上部水路に注意／階段／冠水・河川転落のおそれ／夜道が暗い／城ケ丘第一児童公園／城ケ丘会館／急な坂道／冠水のおそれ／急で長い階段／清水ヶ丘集会所／水路への転落のおそれ／石井城公園／府中北小学校／水路への転落注意／鶴江地区センター／五反田会館／総社会館／府中町歴史民俗資料館／府中公民館／府中小学校

【土砂災害警戒区域等】

※平成29年3月31日指定

がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）：特別警戒区域／警戒区域
土石流：特別警戒区域／警戒区域

【土砂災害警戒区域】
土砂災害により住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域

【土砂災害特別警戒区域】
土砂災害により、建物が破壊され、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

※危険性があっても、住宅等がなければ区域に指定されていません。

土砂災害ハザードマップについて

このハザードマップには土砂災害時に被害が想定される危険箇所や、避難所、避難経路となり得る大きな道路を掲載しています。
災害時に安全に避難できるよう、日頃から防災活動にお役立てください。

●大雨時の避難の心得

土砂災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、がけや浸水区域から離れる（水平避難）だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）を行うという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。



府中東小学校区 土砂災害ハザードマップ

府中町 平成31年4月

※このハザードマップは**大雨による土砂災害**を想定して作成しています。避難行動の参考としてください。

お問い合わせ 府中町 総務企画部 危機管理課 電話：082-286-3243

マーク等の凡例

避難方向／避難場所（屋外に開設する施設）／避難場所（状況に応じて開設する施設）／浸水時緊急退避協力施設／福祉避難所／ヘリポート／小学校区境界

地域からの意見による注意箇所

■日頃気になる箇所
注意する河川・水路／水が流れやすい・あふれやすい道／通行に注意する道／水害注意箇所／車の注意箇所／水がたまりやすい箇所／がけ・斜面の注意箇所

■過去に災害が発生した箇所
がけ崩れ・土砂流出／水害

土砂災害の凡例

	がけ崩れ	土石流
現地の状況	土砂災害特別警戒区域／土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域／土砂災害警戒区域
定義	●土砂災害特別警戒区域：建物が破壊され、人命に大きな被害が生じるおそれがある区域 ●土砂災害警戒区域：土砂災害のおそれがある区域	●土砂災害特別警戒区域／●土砂災害警戒区域

災害危険箇所は、避難を中心とした防災対策を進めるためのものであり、災害や被害の発生範囲を決定するものではありません。区域内外に関わらず、早めの避難を心がけてください。

河川はん濫による浸水想定区域の凡例

府中町内とその周辺を流れる府中大川、榎川、猿猴川において、大雨が降った場合に「堤防を越えて水が溢れる、堤防が決壊する」という予測に基づいた浸水状況をまとめたものです。

■対象降雨量

府中大川	府中大川流域の 24 時間総雨量 769mm
榎　川	60 分降雨強度 71.1mm
猿猴川	太田川流域の２日間総雨量 763mm

■地図上の凡例（浸水深）：0.5m以上／0.5m未満

※浸水時の歩行限界である 0.5m を基準に表示しています。

府中東小学校区および校区周辺の避難施設一覧

避難場所

災害の規模や種類により、順次、避難場所を設定・開設していきます。
災害時に安全に行くことができる最寄の避難場所を使用してください。

開設基準	マーク	施設名称	土石流	がけ崩れ	洪水	海抜(m)
一般避難者「避難開始」発令時	避	府中東小学校	○	○	○	55.2m
	避	府中中学校	○	○	○	31.7m
	避	総社会館	○	○	○	11.5m
	避	府中小学校	○	○	②	3.1m
	避	府中中央小学校	○	○	○	4.0m
	避	福寿館	○	○	○	3.2m
状況により開設	避	府中東地区センター	○	○	○	47.6m
	避	府中公民館	○	○	②	2.9m
	避	府中町歴史民俗資料館	○	○	②	7.0m
	避	県立安芸府中高等学校	—	—	○	85.0m
	避	揚倉山健康運動公園	○	○	○	139.2m

※避の避難場所 ▶地域から挙げられた意見を基にした府中東小学校区の主な避難先
※災害種別 ▶○：使用可 ／ ②：２階以上使用可 ／ —：使用不可

自主防災会、町内会で集会所などを避難場所として自主開設した場合は、自営の上、危機管理課までご連絡ください。

01 浸水時緊急退避協力施設

洪水などの際に、町が開設する避難場所等への避難の途中で浸水危険にさらされた場合に、町民等が緊急一時的に退避するための施設です。地震や土砂災害の際の滞在先として使用するものではありません。

No	施設名称	避難場所	海抜(m)
01	スガタ整形外科医院	３階フロアー	3.1m
02	マンションコペック	廊下・階段	3.6m
03	グランドビア府中	廊下・階段	2.7m
04	アステール藤井	廊下・階段	2.3m
05	府中小学校東棟	廊下・教室等	3.1m
06	FURUTA BLD(古田ビル)	廊下・階段	2.9m
07	みなとやコーポ	廊下・階段	2.5m

01 福祉避難所

避難所生活が長期化するような場合、避難場所での避難所生活が困難な要配慮者（高齢者や障害のある人など特別な配慮を必要とする人）を受け入れる二次的な避難所です。
通常の避難場所とは異なり、原則から避難所として利用することができません。まずは、指定された避難場所へ避難をしてください。

No	施設名称	土石流	がけ崩れ	洪水	海抜(m)
01	福寿館	○	○	○	3.2m
02	府中町ふれあい福祉センター	○	○	○	3.1m
03	社会福祉法人 みどり会 みどり園	○	○	○	3.2m

緊急の場合はマップ上の避難場所などにとらわれず、近くの安全な場所に避難してください。

避難経路上の橋梁／総社会館／詰まりやすい（暗渠）／河川沿条／府中東小学校／がけ崩れ／府中東地区センター／水が流れる／急勾配な坂／府中公民館／府中町歴史民俗資料館／府中小学校／大雨時は水に注意／水があふれた／排水溝があふれた／県立安芸府中高等学校／揚倉山健康運動公園／フタのない水路／交差点（事故に注意）／水が流れやすい／斜面に注意／水があふれやすい／府中中学校／福寿館／交通量が多い／狭い歩行者専用道路／流れが速い／倒木注意／流木で水路が詰まる／水路から水が噴く／街灯が少ない／雨で流れた砂が溜まる／府中中央小学校

S=1:5,000
0 100 200 300 400 500m

府中小学校区 土砂災害ハザードマップ

府中町
令和元年10月

※このハザードマップは大雨による土砂災害を想定して作成しています。避難行動の参考としてください。

お問い合わせ　府中町 総務企画部 危機管理課　電話：082-286-3243

府中小学校区および校区周辺の避難施設一覧

避難場所

災害の規模や種類により、順次、避難場所を設定・開設していきます。
災害時に安全に行くことができる最寄の避難場所を使用してください。

開設基準	マーク	施設名称	災害種別 土石流	崖崩れ	洪水	海抜(m)
「警戒レベル3」発令時	小	府中小学校	○	○	②	3.1m
	小	総社会館	○	○	○	11.5m
	小	府中北小学校	○	○	○	35.5m
状況により開設	小	くすのきプラザ	○	○	②	2.1m
	小	鶴江地区センター	○	○	②	3.0m
	小	府中町立体育場	○	○	—	2.1m
	小	府中町役場	○	○	○	2.8m
	小	安芸府中商工センター	○	○	○	4.3m
	小	府中町歴史民俗資料館	○	○	②	7.0m
	小	府中公民館	令和4年4月リニューアル			

※小の避難場所 ▶地域から挙げられた意見を基にした府中小学校区の主な避難先

※災害種別 ▶○：使用可 / ②：2階以上使用可 / —：使用不可

⚠ 自主防災会、町内会で集会所などを避難場所として自主開設した場合は、自宅の上、危機管理課までご連絡ください。

01 浸水時緊急退避協力施設

洪水などの際に、町が開設する避難場所等への避難の途中で浸水危険にさらされた場合に、町民等が緊急一時的に退避するための施設です。地震や土砂災害の際の滞在先として使用するものではありません。

No	施設名称	避難場所	海抜(m)
01	中国電力(株)府中アパートE棟	廊下・階段	3.3m
02	中国電力(株)府中アパートD棟	廊下・階段	3.2m
03	野村乳業(株)事務所棟	事務所フロアー	3.3m
04	鶴江ビル	廊下・階段	3.8m
05	グリーンドエル鶴江	廊下・階段	3.0m
06	中本ビル	廊下・階段	2.3m
07	スガタ整形外科医院	3階フロアー	3.1m
08	山崎ビル	廊下・階段	2.5m
09	司ビル	廊下・階段	2.4m
10	ハイネス秀	廊下・階段	2.4m
11	サンリブ府中店	立体駐車場	2.0m
12	マンションコペック	廊下・階段	3.6m
13	吉田コーポ	廊下・階段	2.8m
14	グランドピア府中	廊下・階段	2.7m
15	アステール藤井	廊下・階段	2.3m
16	緒木ビル	廊下・階段	2.7m
17	府中小学校東棟	廊下・教室等	3.1m
18	イオンモール広島府中	立体駐車場	1.5m
19	消防庁舎	廊下・講堂	2.7m
20	FURUTA BLD(古田ビル)	廊下・階段	2.9m
21	みなとやコーポ	廊下・階段	2.5m
22	津田野ビル	廊下・階段	1.5m

⚠ 緊急の場合はマップ上の避難場所などにとらわれず、近くの安全な場所に避難してください。

マーク等の凡例

- 主要避難経路
- 避難場所（最初に開設する施設）
- 避難場所（状況に応じて開設する施設）
- 01 浸水時緊急退避協力施設
- 府中交番
- 府中町消防本部
- 水位観測所
- 小学校区境界

地域からの意見による注意箇所

■日頃気になる箇所
- 水がたまりやすい箇所
- 水路等の注意箇所
- 通行注意箇所

■過去に災害が発生した箇所
- 越水した箇所
- 漫水

土砂災害の凡例

	がけ崩れ	土石流
地図上の凡例	土砂災害特別警戒区域 / 土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域 / 土砂災害警戒区域

定義
- ●土砂災害特別警戒区域：建物が破壊され、人命に大きな被害が生じるおそれがある区域
- ●土砂災害警戒区域：土砂災害のおそれがある区域

⚠ 災害危険箇所は、避難を中心とした防災対策を進めるためのものであり、災害や被害の発生範囲を決定するものではありません。区域内外に関わらず、早めの避難を心がけてください。

河川はん濫による浸水想定区域の凡例

府中町内とその周辺を流れる府中大川、榎川、猿猴川において、大雨が降った場合に「堤防を越えて水が溢れる、堤防が決壊する」という予測に基づいた浸水状況をまとめたものです。

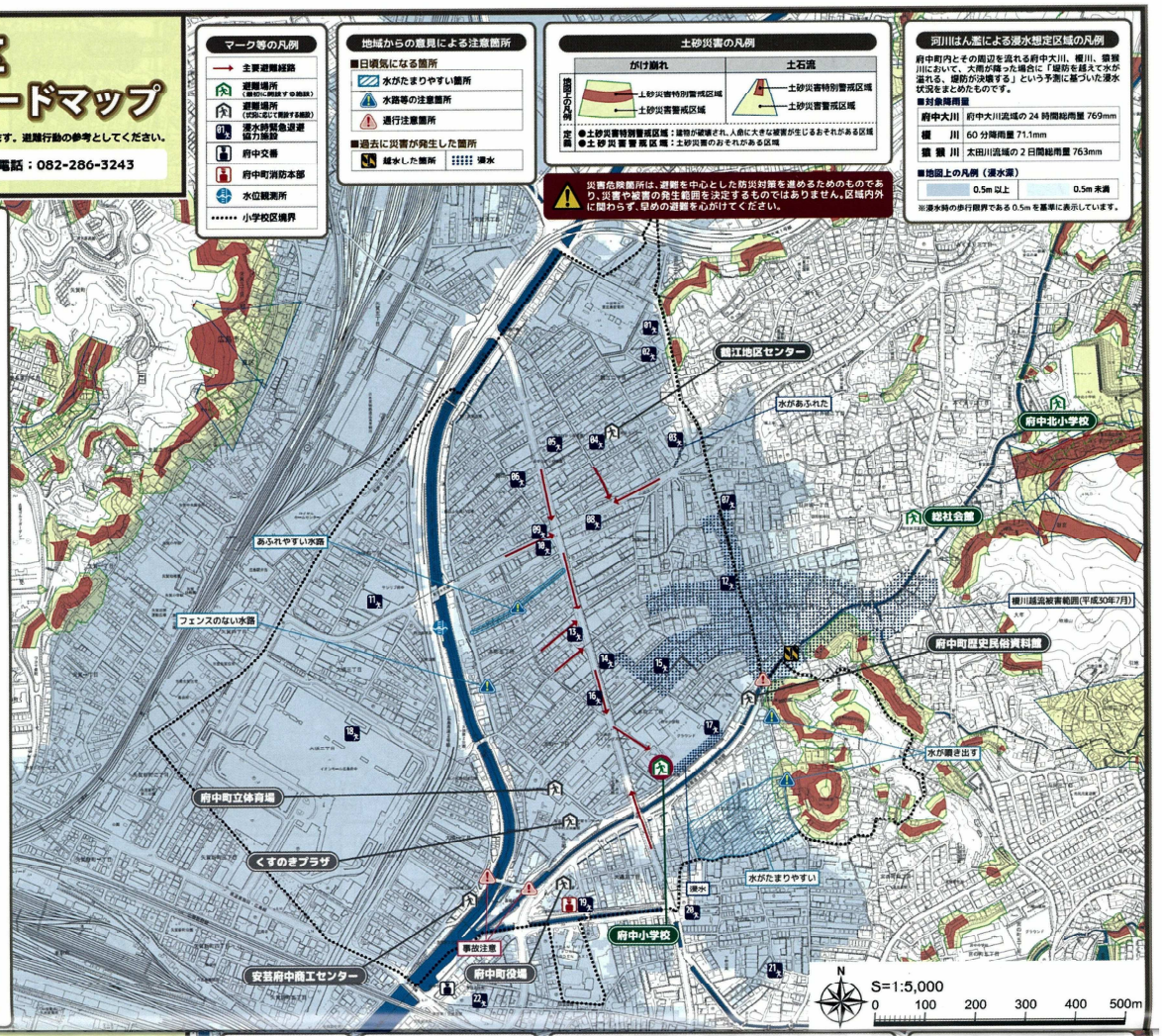
■対象降雨量

府中大川	府中大川流域の 24 時間総雨量 769mm
榎　川	60 分降雨量 71.1mm
猿 猴 川	太田川流域の 2 日間総雨量 763mm

■地図上の凡例（浸水深）

0.5m 以上	0.5m 未満

※浸水時の歩行限界である 0.5m を基準に表示しています。



府中中央小学校区 土砂災害ハザードマップ

府中町
令和元年10月

※このハザードマップは大雨による土砂災害を想定して作成しています。避難行動の参考としてください。

お問い合わせ　府中町 総務企画部 危機管理課　電話：082-286-3243

府中中央小学校区および校区周辺の避難施設一覧

避難場所

災害の規模や種類により、順次、避難場所を設定・開設していきます。
災害時に安全に行くことができる最寄の避難場所を使用してください。

開設基準	マーク	施設名称	災害種別 土石流	崖崩れ	洪水	海抜(m)
「警戒レベル3」発令時	小	府中中央小学校	○	○	○	4.0m
	小	府中緑ヶ丘中学校	○	○	○	15.3m
	小	福寿館	○	○	○	3.2m
	小	府中南交流センター	○	○	②	1.9m
	小	府中小学校	○	○	②	3.1m
	小	府中中学校	○	○	○	31.7m
	小	府中東小学校	○	○	○	55.2m
状況により開設	小	くすのきプラザ	○	○	②	2.1m
	小	府中東地区センター	○	○	○	47.6m
	小	府中町立体育場	○	○	—	2.1m
	小	府中町役場	○	○	○	2.8m
	小	安芸府中商工センター	○	○	○	4.3m
	小	チェリーゴード	○	○	○	46.7m
	小	青少年文化センター	○	○	○	46.4m
	小	空城山公園	○	○	○	38.1m

※小の避難場所 ▶地域から挙げられた意見を基にした府中中央小学校区の主な避難先

※災害種別 ▶○：使用可 / ②：2階以上使用可 / —：使用不可

⚠ 自主防災会、町内会で集会所などを避難場所として自主開設した場合は、自宅の上、危機管理課までご連絡ください。

01 浸水時緊急退避協力施設

洪水などの際に、町が開設する避難場所等への避難の途中で浸水危険にさらされた場合に、町民等が緊急一時的に退避するための施設です。地震や土砂災害の際の滞在先として使用するものではありません。

No	施設名称	避難場所	海抜(m)
01	イオンモール広島府中	立体駐車場	1.5m
02	消防庁舎	廊下・講堂	2.7m
03	FURUTA BLD(古田ビル)	廊下・階段	2.9m
04	みなとやコーポ	廊下・階段	2.5m
05	津田野ビル	廊下・階段	1.5m
06	こばと幼稚園	廊下・教室等	1.5m
07	綜合エナジー（株）事務所棟	会議室	3.7m

02 福祉避難所

避難所生活が長期化するような場合、避難場所での避難所生活が困難な要配慮者（高齢者や障害のある人など特別な配慮を必要とする人）も受け入れる二次的な避難所です。
通常の避難場所とは異なり、最初から避難所として利用することができません。まずは、指定された避難場所へ避難をしてください。

No	施設名称	災害種別 土石流	崖崩れ	洪水	海抜(m)
01	福寿館	○	○	○	3.2m
02	府中町ふれあい福祉センター	○	○	○	3.1m
03	社会福祉法人 みどり会 みどり園	○	○	○	3.2m
04	社会福祉法人 かきつばた福祉会 福寿苑	○	○	○	9.7m
05	府中町福祉の郷 なないろ作業所	○	○	○	13.4m

⚠ 緊急の場合はマップ上の避難場所などにとらわれず、近くの安全な場所に避難してください。

マーク等の凡例

- 主要避難経路
- 避難場所（最初に開設する施設）
- 避難場所（状況に応じて開設する施設）
- 01 浸水時緊急退避協力施設
- 02 福祉避難所
- 府中交番
- 府中町消防本部
- 小学校区境界

地域からの意見による注意箇所

■日頃気になる箇所
- がけ崩れ注意箇所
- 水害注意箇所
- 七ヶ仙注意箇所
- アンダーパス（地下道）

■過去に災害が発生した箇所
- 土砂災害
- 冠水

土砂災害の凡例

	がけ崩れ	土石流
地図上の凡例	土砂災害特別警戒区域 / 土砂災害警戒区域	土砂災害特別警戒区域 / 土砂災害警戒区域

定義
- ●土砂災害特別警戒区域：建物が破壊され、人命に大きな被害が生じるおそれがある区域
- ●土砂災害警戒区域：土砂災害のおそれがある区域

⚠ 災害危険箇所は、避難を中心とした防災対策を進めるためのものであり、災害や被害の発生範囲を決定するものではありません。区域内外に関わらず、早めの避難を心がけてください。

河川はん濫による浸水想定区域の凡例

府中町内とその周辺を流れる府中大川、榎川、猿猴川において、大雨が降った場合に「堤防を越えて水が溢れる、堤防が決壊する」という予測に基づいた浸水状況をまとめたものです。

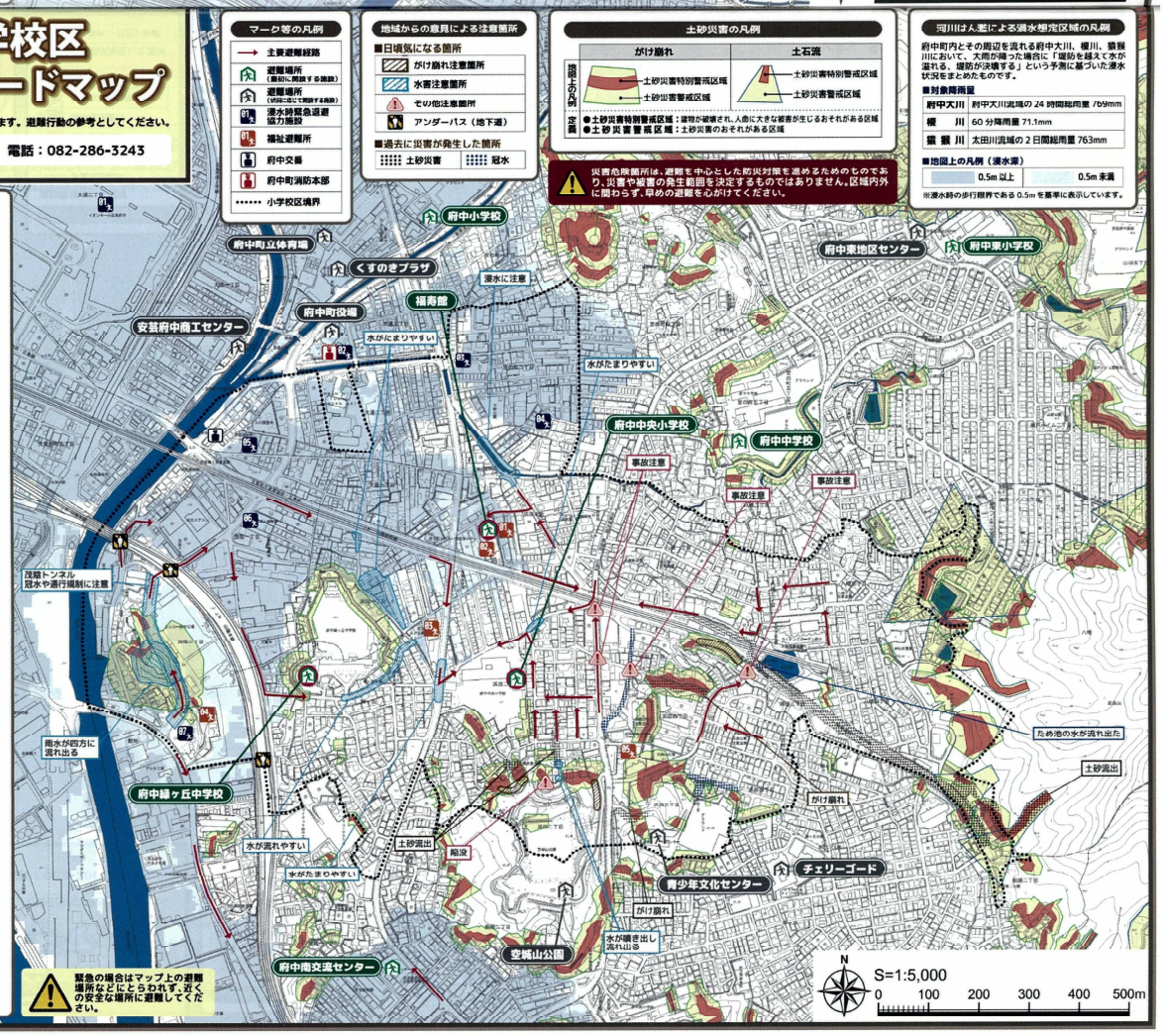
■対象降雨量

府中大川	府中大川流域の 24 時間総雨量 769mm
榎　川	60 分降雨量 71.1mm
猿 猴 川	太田川流域の 2 日間総雨量 763mm

■地図上の凡例（浸水深）

0.5m 以上	0.5m 未満

※浸水時の歩行限界である 0.5m を基準に表示しています。

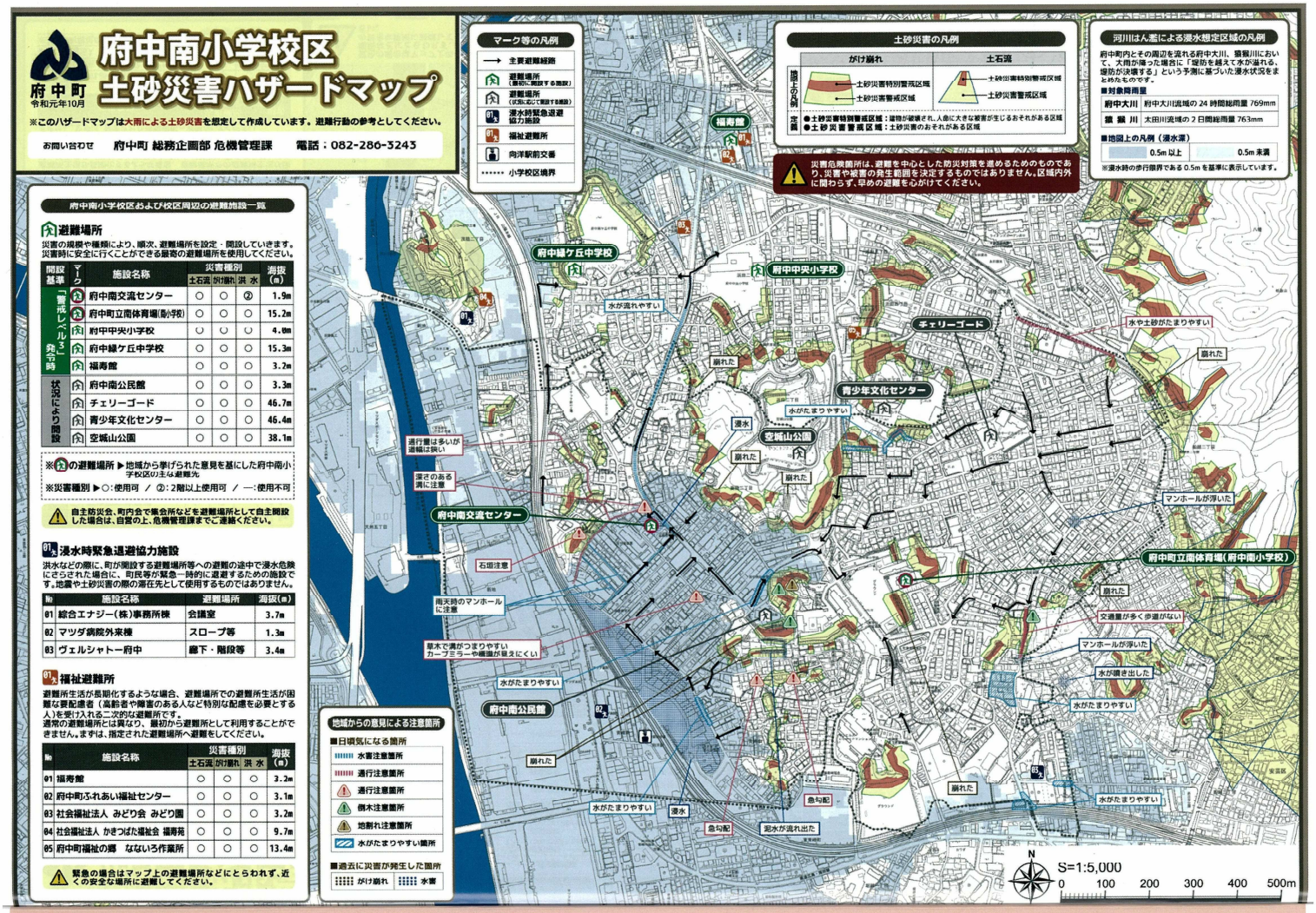


府中南小学校区 土砂災害ハザードマップ

府中町
令和元年10月

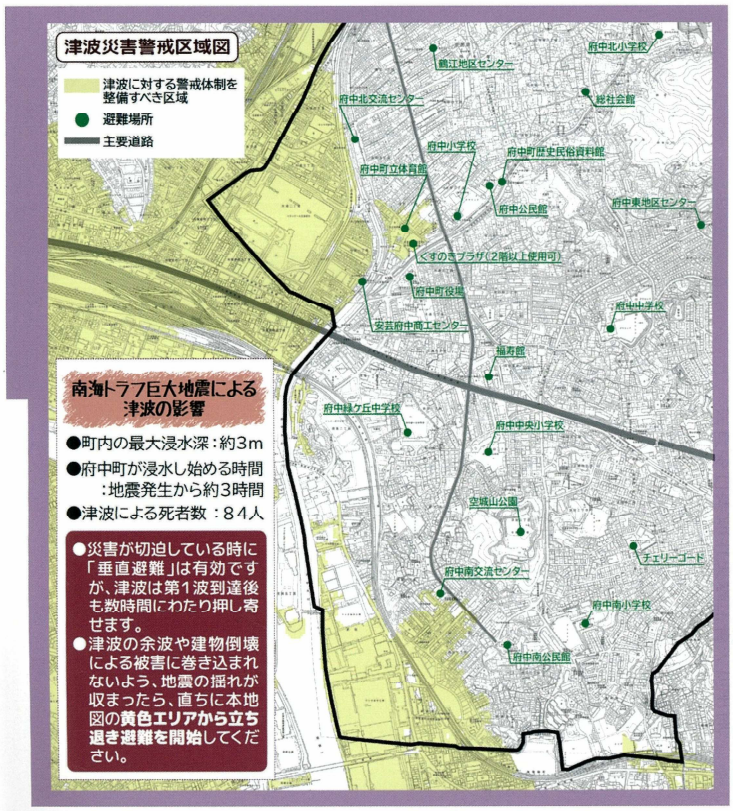
※このハザードマップは**大雨による土砂災害**を想定して作成しています。避難行動の参考としてください。

お問い合わせ　府中町 総務企画部 危機管理課　電話：082-286-3243



■津波災害警戒区域（イエローゾーン）

最大クラスの津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがある区域で、「津波防災地域づくりに関する法律」により区域が定められます。津波から円滑かつ迅速に「逃げる」ことができるよう、津波災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域です。



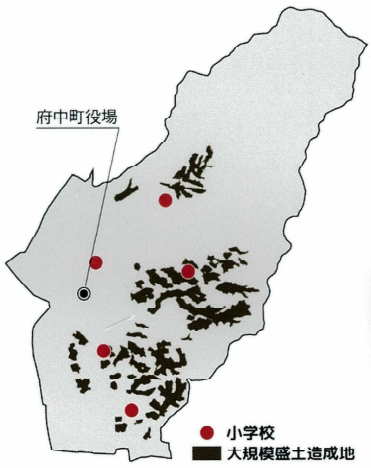
南海トラフ巨大地震による津波の影響

- ●町内の最大浸水深：約3m
- ●府中町が浸水し始める時間：地震発生から約3時間
- ●津波による死者数：８４人

●災害が切迫している時に「垂直避難」は有効ですが、津波は第1波到達後も数時間にわたり押し寄せます。
●津波の余波や建物倒壊による被害に巻き込まれないよう、地震の揺れが収まったら、直ちに本地図の**黄色エリアから立ち退き避難を開始**してください。

■大規模盛土造成地分布図

地震の揺れにより、人工的に造成された「大規模盛土造成地」で、がけ崩れ、土砂の流出が発生した事例があります。町内のどのようなエリアが盛土造成地にあたるのか、下図を参考に確認しておきましょう。



●盛土に関する詳しい情報は・・・

広島県：大規模盛土造成地マップ

https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/262/20170313takuchitaishinka.html

盛土崩壊による被害を防止・軽減するため、広島県では、平成29年度から令和元年度において、大規模盛土造成地の有無を把握するための調査を実施しています。


2004年新潟中越地震（M6.8）による崩壊

地震対策

強い揺れに備えて、屋内外で様々な対策をおこないましょう。また、家屋の耐震などは専門家に相談し、改修に必要な費用の補助制度などは府中町にご相談ください。（補助制度には条件があります）

●相談窓口●
府中町建築課
(☎)082-286-3174

家庭でできる耐震対策

屋内対策　避難経路を確保できるよう、通路や出入り口に物は置かず、重たい家具や安定性の悪い家具は固定して転倒を防止しましょう。

屋外対策　ガスタンクなど転倒しやすいものは鎖などでしっかり固定し、ブロック塀など崩壊危険性の高いものは改修・補強を行いましょう。ガラスにはフィルムを貼るなど、飛散を防ぎましょう。



参考文献一覧

安芸府中町史 第一巻～第四巻

府中町地域防災計画

もかげのあゆみ

鹿篭昔ばなし

商工会 30 年史

発行年月

令和３年 12 月

編集・発行者

府中町災害記録史作成実行委員会